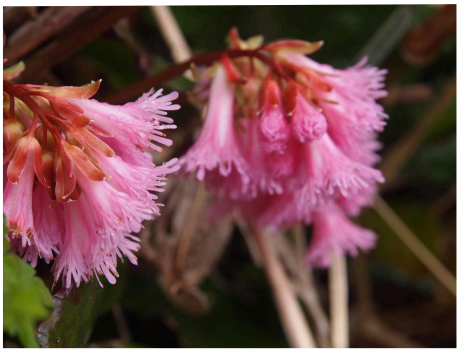
生物多様性
わかもの白書 vol.2

2017年 8月



はじめに　　生物多様性×わかもの

失われゆく生物多様性・大量絶滅時代

生命は、地球上に誕生してから40億年もの長い時を経て様々な環境に適応し、実に多種多様な生き物へと進化してきました。その生物多様性から人々は様々な恵み（＝生態系サービス）を享受して、豊かな暮らしを築き上げてきました。

しかし、現在、開発や乱獲、外来種の侵入や気候変動など、様々な人為的活動の影響から、生き物たちは急速なスピードで姿を消しつつあります。これまでにも5回、自然現象が原因となって大量絶滅が起こってきましたが、「第6の大量絶滅時代」とも呼ばれる現在の大量絶滅は、過去に例を見ないスピードで起きています。

2010＋7年

生物多様性は、人々の暮らしと密接に絡み合っています。危機に瀕している生物多様性の減少を止めるためにも、多くの国や人々が向き合わねばなりません。この問題に対応するために、2010年に愛知県で生物多様性条約第10回締約国会議（CBD-COP10、以下COP10）が開催されました。ここで、「自然との共生」というビジョンと、そのビジョンを実現するため、2020年までに達成が必要な20の個別目標「愛知ターゲット」が全加盟国（193の国と地域）の総意で議決されました。これらは、政府の努力だけではなく、企業やNGO、それに私たち「わかもの」を含む市民など、一人ひとりの行動があってこそ達成される目標であることが大切なポイントです。

今年は2017年、2020年まで残すところ3年を切り、目標達成のための10年間も後半となっています。2020年に、愛知ターゲットが達成され、未来に生きる次の世代に豊かな生物多様性を残すためにも、今そしてこれからの私たちの行動が試されています。

未来の担い手「わかもの」

本書で取り上げる「わかもの」とは、広く20代前後の、今まさに自分の生き方を選び、掴み取ろうとしている世代を指しています。子供から成人となり、自分自身の将来を自ら選択し、それに向けて努力する、まさに社会の中で“受け手”から“担い手”へと変化する世代です。これからの未来を生きる「わかもの」だからこそ、自分たちの生きる時代、そしてさらに次の世代に向けて、意志と責任を持ち、行動を示すことが重要です。

活動と活動をつなぐ「生物多様性わかもの白書」

この「生物多様性わかもの白書」は、国内の「わかもの」による生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた活動を把握・発信し、“生物多様性”をキーワードに、1つひとつの活動をつなげ、発展させることを目的としています。

そして、読者の皆さまにとって、本書が、生物多様性を守るための行動を始めるきっかけや、活動のさらなる発展につながることを心より願っています。

本書が扱う「わかもの」とは

「わかもの」と一言で言っても、大きくは学生と社会人に分けられ、その中でも様々な生き方、活動、仕事をしている人がいます。本書では主に、環境問題・第一次産業に関連する活動を行っている学生団体を軸に、大学生を扱うこととしています。

目次

はじめに 1

本書の構成と利用・活用について 3

第1章　調査方法とアンケート回答者について 4

第2章　生物多様性に関する活動の実施状況 8

アンケートの概要 9

コラム：生物多様性とは 9

コラム：愛知ターゲットとは 10

アンケート結果 13

まとめと考察 21

第3章　環境・第一次産業活動を行う学生の意識・進路選択について 22

アンケートの概要 23

アンケート結果 25

自然環境保全や生物多様性に関する知識、認識の調査 28

まとめと考察 32

学生団体の活動を踏まえた進路選択に関する調査 33

まとめと考察 41

参考資料 42

編集後記 55

ご支援いただいた皆様 56

生物多様性を守るために、あなたにできること 57

謝辞

本書の作成にあたりまして、株式会社ダイフク様、国連生物多様性の10年日本委員会様及び国際自然保護連合日本委員会様からご支援、ご協力を頂きました。本当にありがとうございました。

また、アンケートにご協力頂いた学生、OB・OGの皆様なしでは、本書の作成は始まりもしませんでした。ここに厚く御礼申し上げます。

本書の構成と利用・活用について

本書の構成

◆ 第1章
実施したアンケートの手法など、基本情報について掲載しています。

◆ 第2章
環境・第一次産業に関連する活動を行う学生団体を対象として、活動内容等について実施したアンケート調査について、結果や考察等を掲載しています。

◆ 第3章
環境・第一次産業に関連する活動を現役で行っている学生と、OB・OGを対象として、生物多様性についての意識や進路選択等について実施したアンケート調査について、結果や考察を掲載しています。

◆ 参考資料
実施したアンケート項目の詳細等について、資料を掲載しています。

本書の利用・活用方法

本書は、以下のような利用・活用を想定し、作成しています。

- 自身の活動の見直しの際の裏付け資料として
- 新たな活動を考える際の参考資料として
- 政策提言・その他提案の裏付け資料として

また、アンケートのデータをより活用してもらうために、個人が特定されない形でのデータ提供を行います。
本書を引用し作成したものを公表される際、データを利用したい際は、事前に以下のアドレスまでご一報ください。

biodiversity.youth.network ★ gmail.com
（★を＠に変更してお送りください）

第１章
調査方法とアンケート回答者について

アンケート基礎情報

調査対象

環境問題、第一次産業のうち、どちらか1つでも関連する活動を行っている学生団体を対象としました。「生物多様性」は、地球環境全体に関わるものとしてとらえることも、1つの地域のものととらえることもできます。また、「生物多様性の保全を活動の目的としていなくても、生物多様性保全に貢献している活動」が存在していることが、『生物多様性わかもの白書vol.1』の調査で明らかになりました。したがって、生物多様性の損失を地球環境問題としてとらえた上で、それの解決を目的として行われている活動だけでなく、自然と密接に関わる、第一次産業に関連する活動も調査対象とすることが妥当であると考えました。

また、学生団体は、多くの場合で、ホームページや連絡先に関する情報が整備されています。学生個人単位で調査を行うよりも、検索によって多くの団体の情報を得た上で拡散することができ、アンケート回答者の偏りを防ぐことができると言えます。以上の理由より、今回の調査対象を学生団体とし、学生団体を軸として現役学生個人、OB・OGにもアンケートを行いました。

59団体にメールでアンケートを配布し、28団体から回答を得られました。配布した団体と、実際に回答を得られた団体の所在地の分布を図1.1.に示します。

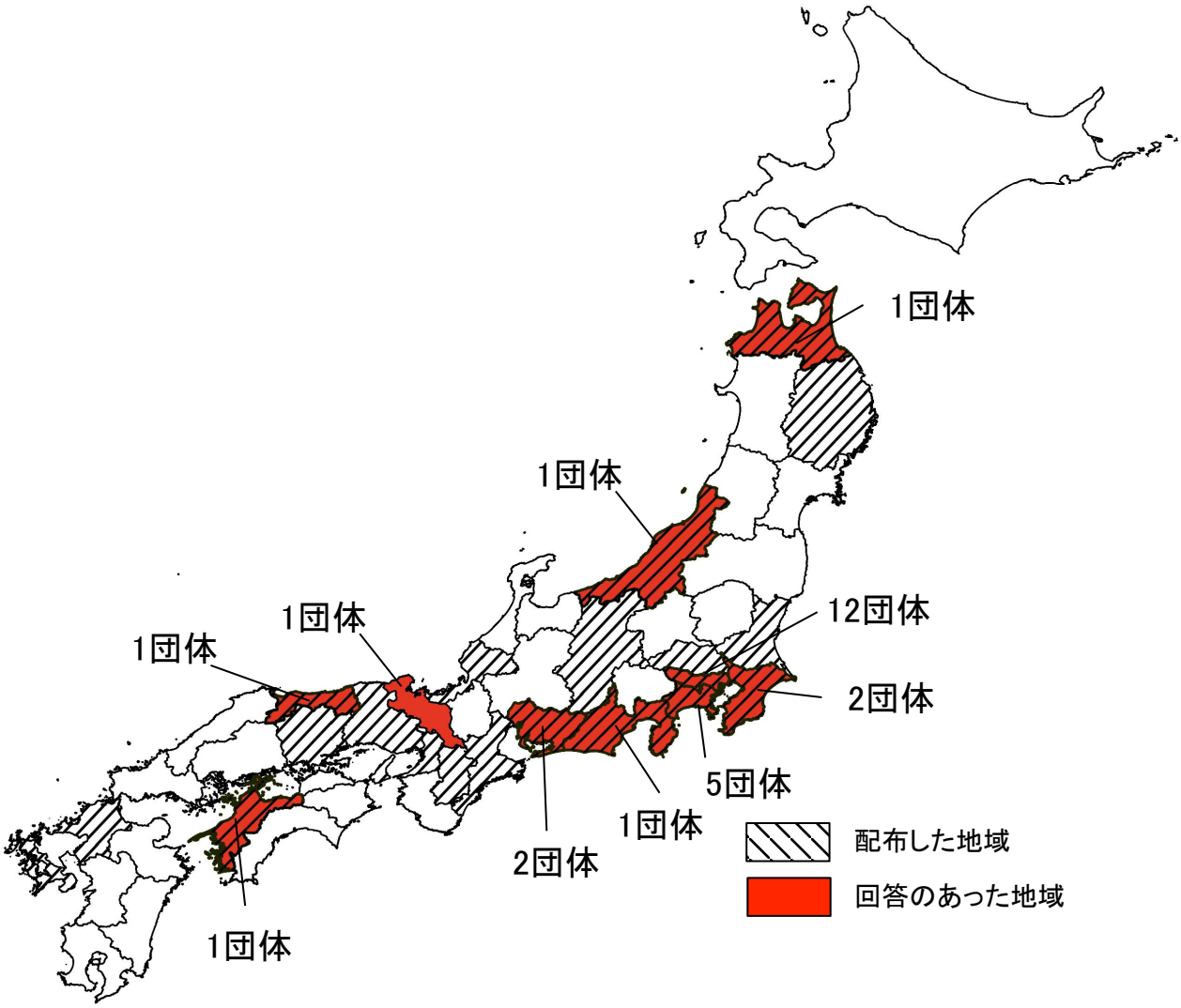


図1.1.　アンケートの配布/回答のあった地域
（図中の数字は回答団体数）

調査手法

Google formによるウェブアンケートを、環境問題・第一次産業に関連する活動を行っている団体に配布し、回答してもらいました。
アンケートは対象別に、①学生団体向け ②学生団体の現役メンバー向け ③学生団体のOB・OGメンバー向けの3つに分かれています。各アンケートの質問内容については、P.42からの参考資料にそれぞれ記載しています。以下に、アンケートごとの配布方法や回答主体について示します。

図1.2. ウェブアンケートの一部

① 学生団体向け

配布方法:

1） 生物多様性わかものネットワークのメンバーによる、学生団体へのメールなどでのお願い
『生物多様性わかもの白書vol.1』で回答のあった団体、生物多様性わかものネットワークのメンバーが知っている団体、Google検索で見つけた団体にメールで配布しました。
2） 生物多様性わかものネットワークの公式Facebookや、メンバー個人のSNSによる拡散
3） 第14回全国大学生環境活動コンテスト（ecocon2016。2016年12月23日、24日開催）でのチラシの配布

回答主体:

各団体やプロジェクトの代表者1名に回答してもらいました。
より正確な情報を得るため、1つの団体の中に複数のプロジェクトがある場合は、団体全体としての回答の他に、プロジェクトごとにも回答してもらうようにしました。

② 学生団体の現役メンバー向け、③学生団体のOB・OGメンバー向け

配布方法:

1） 生物多様性わかものネットワークのメンバーによる、現役メンバー、OB・OGメンバーに拡散してもらうよう、学生団体向けのアンケートを配布した団体へのメールでのお願い
2） 生物多様性わかものネットワークの公式Facebookや、メンバー個人のSNSによる拡散

回答主体:

各団体の現役メンバー、OB・OGメンバー1人ひとりに回答してもらいました。

第２章
生物多様性に関する活動の実施状況

アンケートの概要

アンケートの目的

愛知ターゲットが議決されて7年の月日が経とうとしていますが、まだまだ社会のなかで生物多様性をめぐる問題がきちんと把握され、その保全や持続的な利用に向けた活動が十分になされているとは言えません。

一方で、全国各地の環境問題に関心を持ち、活動する学生団体では、絶滅の危機に瀕した生き物の保全活動、里山での農作業、竹林の管理活動など、生物多様性に関する様々な活動が行われています。

生物多様性わかものネットワークでは、学生団体による生物多様性に関する活動の実態を把握することを目的に、2014年度に環境問題に 関する活動を実施している学生団体に対して「生物多様性に関する活動についてのアンケート」を行いました。この時は以下の内容について実施し、活動のモチベーション要因や課題を把握し、生物多様性に関する活動を促進させるためにどのような取り組みが必要かを考察しました。

- 生物多様性に関するキーワードの認知度
- 生物多様性に関する活動の実施状況について
- 生物多様性に関する活動を実施していない理由

今回は、2014年度のアンケート結果とほぼ同内容のものを実施し、活動のモチベーション要因や活動促進のために必要な取り組みを把握するとともに、経年変化による団体の活動傾向の変化を考察するものとしました。

生物多様性とは

生物多様性は、3つに分けられます。

生き物の暮らす環境が様々であること。
山、海、川などそれぞれに異なる生き物同士のつながりがあります。
私たちは、それぞれ異なる風景を楽しむことができます。

たくさんの種類の生き物がいること。
それぞれの種が
関わりあって生きています。

同じ種類の生き物であっても、個体ごとに異なる遺伝子を持っていること。
病気が流行っても、免疫のある個体がいれば絶滅が避けられます。

生き物同士は、食べる・食べられるの関係だけでなく、昆虫が媒介することによって受粉できる植物や、サンゴに住む場所を提供してもらっている魚など、様々なかたちで関わりあって生きています。一見関わりのないように見える生き物であっても、いくつもの生き物同士の繋がりを介して、生きていくために不可欠な関わりがあるかもしれません。生物多様性がほんの少し失われるだけで、どこにどれだけ影響が出るかは未知数です。だからこそ、守っていく必要があります。

3つの生物多様性、全てがあるから、私たちは自然の恵みを受け続けることができるのです。

愛知ターゲットとは

「生物多様性」は、とらえているものが実に広く、言葉だけを聞いてもその意味はわかりづらいかもしれません。また、その保全や持続可能な利用に向けた行動も多岐に渡っています。そこで、生物多様性を守るために必要となる具体的な行動をまとめたのが「愛知ターゲット」です。愛知ターゲットは、2010年に愛知県名古屋市で開催された国際会議、COP10で決議されました。

決定の背景

生物多様性条約（CBD）とは、1992年の国連総会で「国連気候変動枠組条約」とともに採択された条約です。条約の目的は、「生物多様性の保全」、「生物資源の持続可能な利用」、そして「遺伝資源から得られる利益の衡平かつ公正な配分」の3つです。2017年現在では196の国と地域が批准しています。

2002年にはこの生物多様性条約第6回締約国会議（CBD-COP6、以下COP6）が行われました。COP6では「2010年までに、生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」ために各国が具体的に行動を起こし始めることを記した、初めての計画（2010年目標）が合意されました。しかし、「生物多様性の損失は現在も続いており、目標は達成できていない」と失敗に終わりました。それを受け、COP10では「行動に移すこと」に重きを置いた、2020年に向けた新しい計画が決議されました。それが「生物多様性戦略計画2011-2020」であり、その中の重要な目標が「愛知ターゲット」です。

内容

愛知ターゲットは、生物多様性条約の加盟国が、生物多様性・自然の恵みを守り・向上させ、持続的に利用し、公正に利益を分かち合うための目標を示しています。愛知ターゲットの達成のためには、地球・国家・地域という様々な規模で、多様な立場の人々（国際機関・政府・自治体・科学者・企業・NPO・先住民族・ユース（わかもの））の協力が必要です。

愛知ターゲットは、2020年までに達成すべき20の個別目標からなり、それらの個別目標は大きく5つの戦略目標に分けられています。

- **戦略目標 A** …生物多様性損失の根本的な原因（生物多様性そのものを知らない等）に対処する。
- **戦略目標 B** …生物多様性損失の直接的な原因（森林を過剰に伐採する等）に対処する。
- **戦略目標 C** …生態系、種、遺伝子の多様性の状況を改善する。
- **戦略目標 D** …生物多様性や生態系の恵みを大きくする。
- **戦略目標 E** …目標達成のために参加する人を増やし、参加する人の知識を増やす。

図2.1.　戦略目標A~Eと個別目標の対応
数字は図2.2.の個別目標と対応しています。

20の個別目標は、それぞれが深く関わりあっています。例えば、海の保護地域を作ること（個別目標11、戦略目標C）は、サンゴ礁の回復（個別目標10、戦略目標B）につながり、それによって漁獲量の回復（個別目標14、戦略目標D）につながるということがあります。一つの行動が、いくつもの目標を達成することに貢献していくのです。

アンケート項目

アンケート項目を以下に示します。

1） 団体（プロジェクト）の基本情報
2） 生物多様性に関する活動の実施状況
3） 生物多様性に関する活動の内容（実施している場合のみ）
4） 生物多様性に関する活動を実施していない理由（実施していない場合のみ）

「生物多様性に関する活動」について

生物多様性は様々な環境問題と関与している一方で、その関係性が認識されづらいものです。すでに実施されている環境問題に関する活動のなかにも、関わりが認識されていないだけで生物多様性に関する活動が多く存在するのではないかと考えました。それを正確に把握するため、以下のような対応をしました。

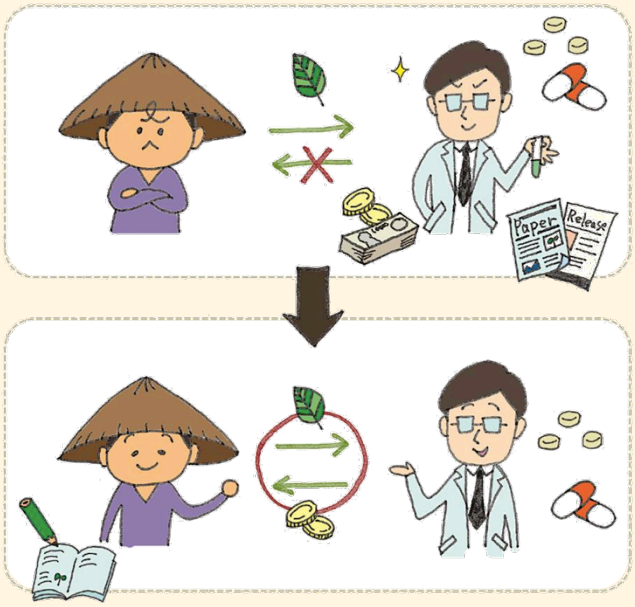
① 愛知ターゲットの具体化
愛知ターゲットを基に、より具体的でわかりやすい活動の形に読み替えた選択肢（P.12参照）を作成しました。

② 選択肢を意識的・無意識的・実施していないに振り分け
①の選択肢を、「生物多様性保全を意識した活動として行っている」、「生物多様性保全を意識した活動ではないが行っている」、「行っていない」に分類してもらいました。「生物多様性保全を意識した活動」というのは、団体（プロジェクト）として、生物多様性保全を目的の1つとして考えているかどうかで判断してもらいました。

ABSとは

ABSとは、Access to genetic resources and Benefit Sharing（遺伝資源の利用から生じた利益の公正で衡平な配分）の略称です。遺伝資源とは、利用価値のある生物由来の素材のことを言います。現在、様々な生き物が、遺伝資源として医薬品や食料品など幅広く利用されています。こうした遺伝資源の多くは豊かな自然が残る途上国が保有しています。しかし、特に医薬品において、それらを開発し商業利用することで利益を上げてきたのは、技術を持つ先進国がほとんどでした。また多くの場合、その利益が公平に配分されることがなかったため、途上国が不満を持ち、先進国が遺伝資源の提供国にも利益を配分することを求めました。

結果、COP10で名古屋議定書というABSについての決まりが採択されました。現在、遺伝資源を持ち出す際のルールや、得られた利益を公正かつ衡平に分配する仕組みを作り、運営していくための議論が名古屋議定書の場で行われています。



愛知ターゲットと生物多様性に関する活動の選択肢の対応表

『生物多様性わかもの白書vol.1』のアンケートで、愛知ターゲットをより具体的でわかりやすい活動に置き換えた以下の選択肢を作成しました。本書のアンケートでも、学生団体の活動を分類するにあたって、以下の選択肢を利用しています。

※1 個別目標19に該当する選択肢は今回含めませんでした。

図2.2.　愛知ターゲット個別目標と対応する環境活動の選択肢

複数の個別目標が対応する質問を破線で結んでいます。

アンケート結果

回答団体の基本情報

今回（2016年度）の調査では、28団体（2つの団体内プロジェクトを含む）による回答を得ることができました。団体の種類は以下の通りです。

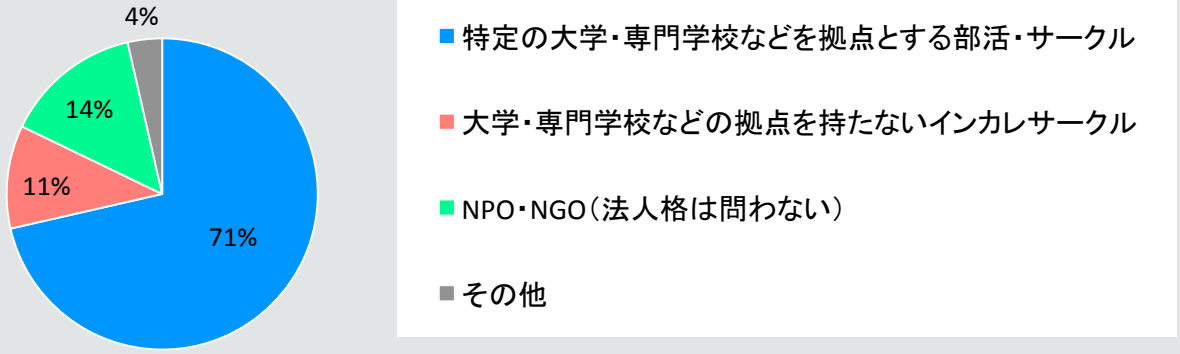


図2.3.　回答団体の種類

団体のメンバーについて、構成人数は1～10人と21～30人がそれぞれ7団体と最も多く、100人以上の大きな団体も2団体ありました。

団体内で最も多い構成員の所属（文系、理系、文理混合）は、理系に所属するメンバーが最も多い団体は11団体（全体の約40%）を占めました。「その他（1団体）」の内容は、「デジタルコンテンツに関する知識・スキルを有する人」でした。

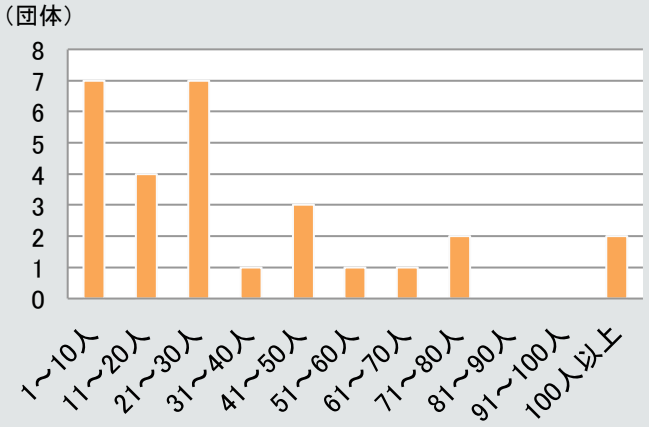


図2.4.　団体の構成人数

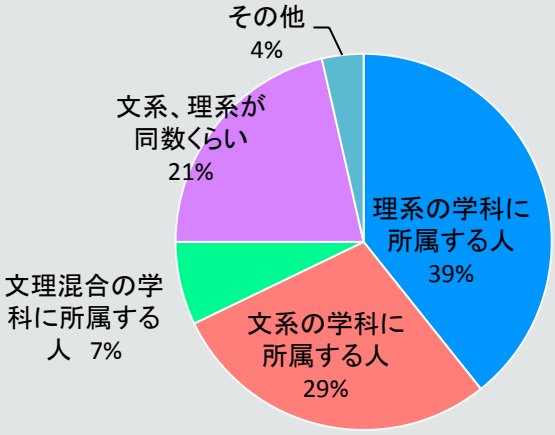


図2.5.　団体で最も多い構成員の所属

団体の設立年は、2001～2005年が11団体と最も多く、1990～1995年に設立され20年以上続いている団体もありました。

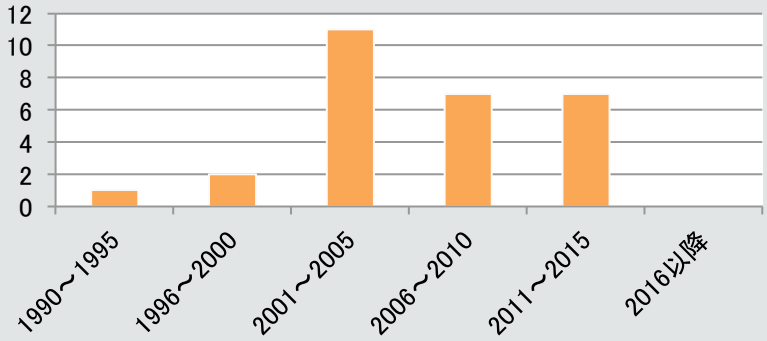


図2.6.　団体の設立年

参考：生物多様性わかもの白書vol.1と2　結果統合版

本項目については2014年度に第1回、2016年度に第2回のアンケートが行われました。そのため参考情報として第1回および第2回の回答団体を統合した情報をお伝えします。この調査では、51団体（2つの団体内プロジェクトを含む）による回答を得ることができました。このうち

第1回のみ回答：23団体
第2回のみ回答：12団体（2つの団体内プロジェクトを含む）
第1回、第2回に回答：16団体

となりました。以下の回答について、第1回および第2回に回答した団体については第2回の回答結果を採用しています。

回答団体の種類は特定の大学・専門学校などを拠点とする部活・サークルが32団体と最も多かったです。

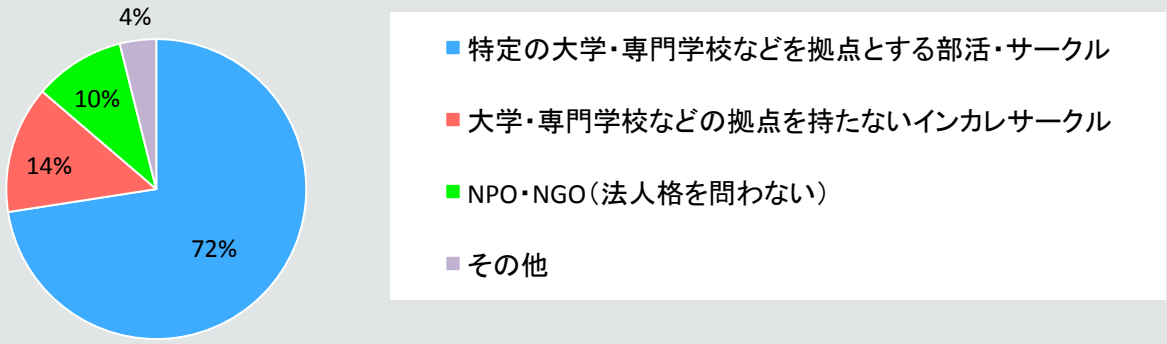


図2.7.　回答団体の種類

団体のメンバーについて、構成人数は10～50人が28団体と最も多く、100人以上の大きな団体も5団体ありました。

団体内で最も多い構成員の所属（文系、理系、文理混合）は、理系に所属するメンバーが最も多い団体は23団体（全体の約45%）を占めました。

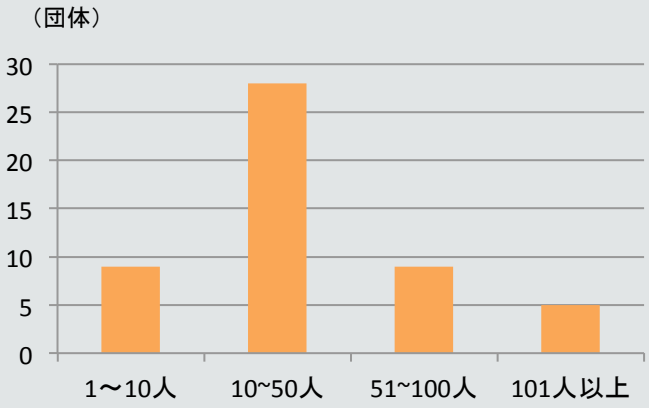


図2.8.　団体の構成人数

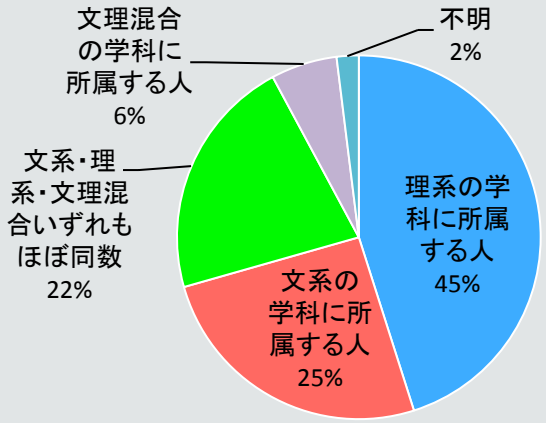


図2.9.　団体で最も多い構成員の所属

団体の設立年は、2001～2005年が16団体と最も多く、1995年までに設立され20年以上続いている団体も7団体ありました。

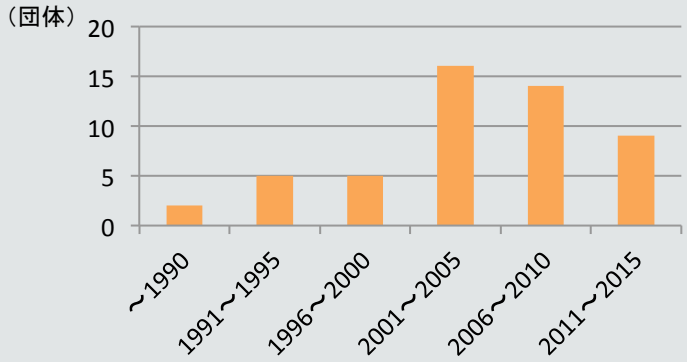


図2.10.　団体の設立年

回答団体の活動内容

各団体の活動内容について、複数選択で回答してもらいました。選択肢は、『生物多様性わかもの白書vol.1』で得たデータをまとめたものから作成しました。結果は以下のとおりです。

図2.11.　回答団体の活動内容

生物多様性に関する活動の実施状況

ここでは、各団体の活動内容について、愛知ターゲットを基にして作成した、生物多様性に関する活動の選択肢（P.12参照）と照らし「該当する活動を実施しているかどうか」と、「その活動を生物多様性との関わりを意識しているかどうか」という2つの質問から、回答結果を「意識」、「無意識」、「該当なし」に分類をしました。

生物多様性に関する活動を意識的に実施している団体（「意識」）が9団体なのに対して、生物多様性に関する活動を実施している ものの、活動と生物多様性との関わりを意識していない団体（「無意識」）、選択肢で挙げた生物多様性に関する活動にどれも該当しなかった団体（「該当なし」）についても、それぞれ8団体、11団体となりました。

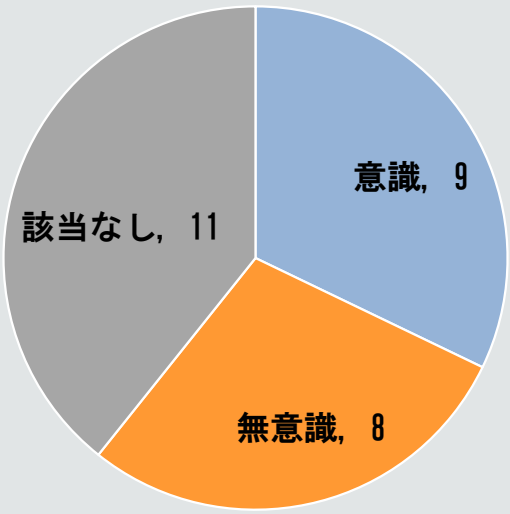


図2.12.　生物多様性に関する活動の実施状況

生物多様性に関する活動を実施していない理由

上記で明らかになった「該当なし」の11団体について、「生物多様性に関する活動の実施したことがありますか」という質問に対して、全団体ともに「検討していない」もしくは「検討したが活動の優先度が低い」という結果となりました。

これらの団体をみると以下のように分類できました。

① ごみ拾い、省エネ活動等の様々な環境活動を手広く実施している団体（6団体）
② 他の団体をネットワークし、情報交換や人材交流の場を提供するネットワーク団体（3団体）
③ 1つのテーマについて集中的に活動している団体（2団体）

このことから生物多様性に関する活動を実施していない理由として以下のことが考えられました。

①の団体：様々な環境活動を実施しているが、生物多様性に関する活動については実施を思いつかなかった/実施方法がわからなかったため
②の団体：他団体のネットワークが主な活動目的であり、1テーマとなる生物多様性については、活動目的と異なるため
③の団体：既に取り組むテーマがあり、生物多様性に関する活動は自団体のテーマと異なるため

生物多様性に関する活動の実施内容

ここでは各団体の生物多様性に関する活動の実施内容について、「意識」と「無意識」のそれぞれでの実施数を図2.13.に示しました。

全体として森林伐採など自然環境の破壊や劣化を止めるための活動（「破壊・劣化の防止」）、里山などを含む自然環境の保全管理活動（「里山保全管理」）の活動が最も多く、次いで、持続可能な一次産業（農業・林業・養殖業）に関わる活動（「一次産業」）が多く存在しました。

また、活動と生物多様性との関わりについての「意識／無意識」別にみると、以下のことが明らかになりました。

＜意識して活動している団体＞

- 森林伐採など自然環境の破壊や劣化を止めるための活動（「破壊・劣化の防止」）が最も多い
- 外来種駆除や侵入防止に関する活動（「外来種」）などの専門的な知識も要するものは「意識」的に活動する団体のみが占める

＜無意識で活動している団体＞

- 里山などを含む自然環境の保全管理活動（「里山保全管理」）が最も多い
- 自然や生物多様性に関して国や自治体に対する政策提言活動（「政策提言」）に関する活動は「無意識」の団体のみが占める

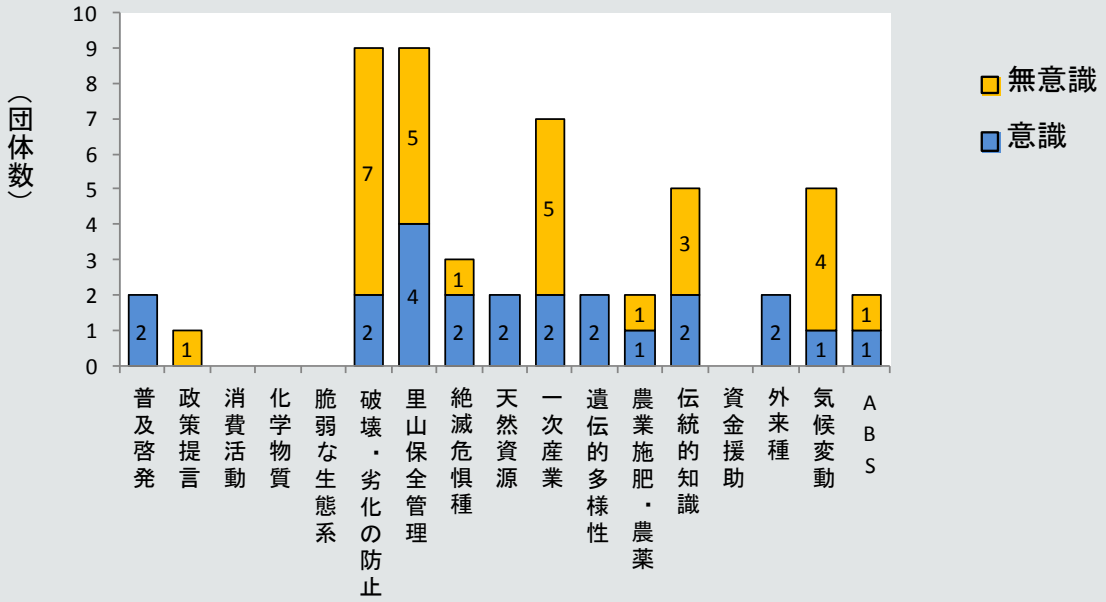


図2.13.　生物多様性に関する活動の内容別の実施数

それぞれの活動内容を表した選択肢は短縮表記をしています。選択肢の詳細はP.12をご覧ください。

無意識な理由

「無意識で生物多様性に関する活動を実施する団体」の8団体について、活動内容を調べると以下のように分類できました。

- 森林の管理、植樹活動（2団体）
- 環境に関する企業の課題を解決するビジネスコンテストの開催（1団体）
- キャンパスの古紙回収や小学校での環境教育（2団体）
- 里山の保全（2団体）
- 稲作や畑作、堆肥作りなどの農作業（1団体）

これらの活動が生物多様性との関連性が低い（＝無意識で活動している）と考えている理由を聞いた結果、以下の回答を得ました。

- 関係があることは知っていたが、団体（プロジェクト）として生物多様性保全を意識するかどうかは検討できていない（6団体）
- 生物多様性保全に重点を置いていない（1団体）
- 健全な森林の育成を目的としており、林業において健全な森林とは、雑草や低木などが少ない状態を指すため、生物多様性は低い状態にある（1団体）

生物多様性に関する活動の実施状況

この質問項目についても、第1回および第2回を統合した結果を示します（図2. 14. ）。

生物多様性に関する活動を意識的に実施している団体（「意識」）が16団体なのに対して、生物多様性に関する活動を実施しているものの、活動と生物多様性との関わりを意識していない団体（「無意識」）、選択肢で挙げた生物多様性に関する活動にどれも該当しなかった団体（「該当なし」）についても、それぞれ17団体、11団体となりました。

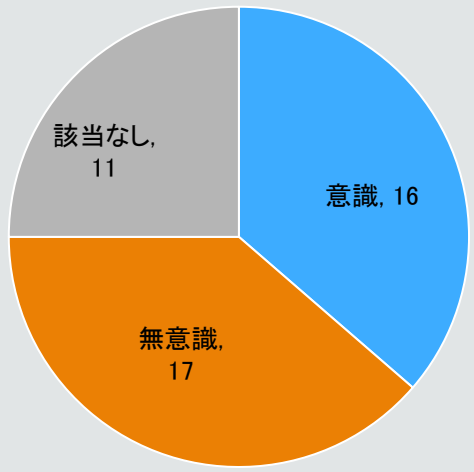


図2.14.　生物多様性に関する活動の実施状況

生物多様性に関する活動の実施内容

各団体の生物多様性に関する活動の実施内容について、図2.15.に示しました。なお第1回では各内容ごとに意識／無意識で活動に取り組む旨の質問項目を設けていないため、今回は活動実施数のみ掲載しました。また第2回では普及啓発・政策提言・消費活動に関する項目を設けていないため、そちらの項目については掲載していません。

全体として里山などを含む自然環境の保全管理活動（「里山保全管理」）の活動が最も多く、次いで、森林伐採など自然環境の破壊や劣化を止めるための活動（「破壊・劣化の防止」）が多く存在しました。

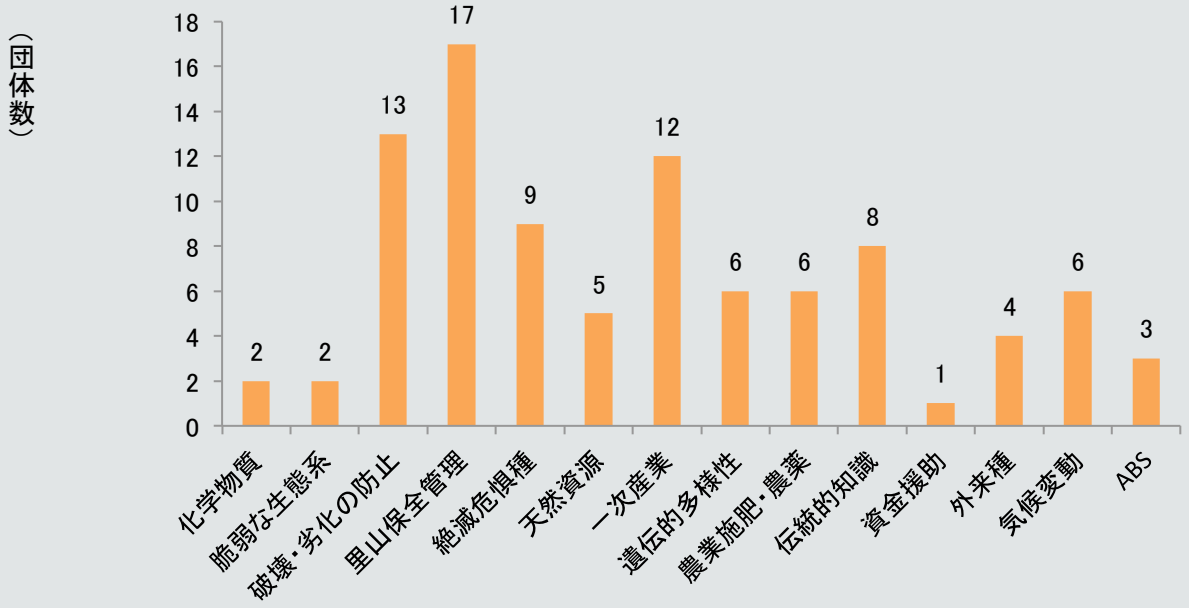


図2.15.　生物多様性に関する活動の内容別の実施数

それぞれの活動内容を表した選択肢は短縮表記をしています。選択肢の詳細はP.12をご覧ください。

生物多様性保全に関連する活動を実施している団体について

活動のためのフィールド

生物多様性に関する活動を実施している17団体のうち、13団体が活動のためのフィールドを持っていました。活動フィールドを持つ13団体と持たない4団体の活動内容を比較すると以下のように分類できました。

フィールドを持つ団体

- 河川の保全活動
- 里山の保全・体験活動
- 森林の管理・植樹活動
- 生物調査
- 農作業

フィールドを持たない団体

- ビジネスコンテストの開催
- 地産地消活動、インドネシアのヤシ砂糖の普及活動
- 生物物資源と気候変動の関係についての発信
- 環境に配慮した企業へ投資する銀行への貯金の啓発

フィールドを持つ団体は活動フィールドを保全するための活動であるのに対し、持たない団体は他セクターへの意識啓発の活動が多く見受けられました。

フィールドとの距離

フィールドを持つ13団体のうち約半数（7団体）は、学校などの拠点とする場所からフィールドまでの距離が10km以内である活動でした。一方で、100km以上と離れたフィールドに通う団体も存在していました。

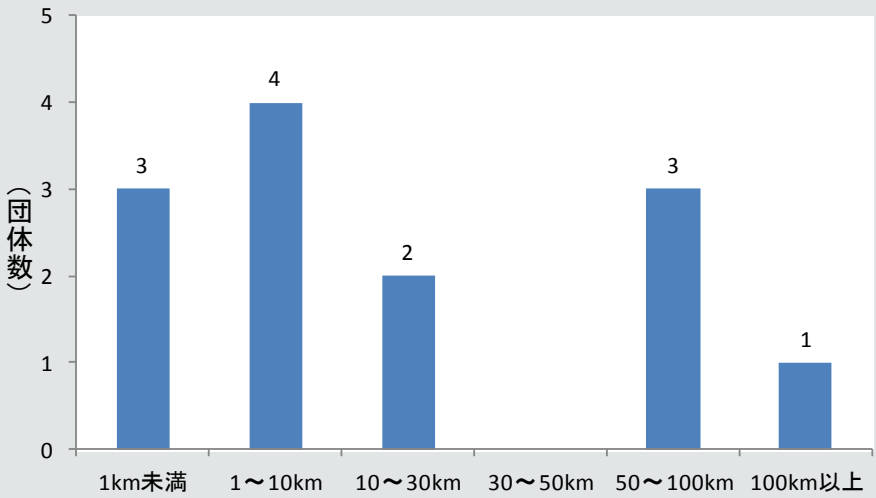


図2.16.　活動フィールドまでの距離

東京から、佐渡島に通うプロジェクトもありました。

活動に対する支援の有無とその内容

生物多様性に関する活動を実施している17団体のうち15団体と、ほぼ全ての団体が外部から何らかの支援を得ていました。その内容をみると、「資金的支援」が最も多かったですが、「活動場所の提供」「知識の提供」も約半数の団体が支援を受けていました。また、1団体あたりは平均して2種類の支援を受けていました。

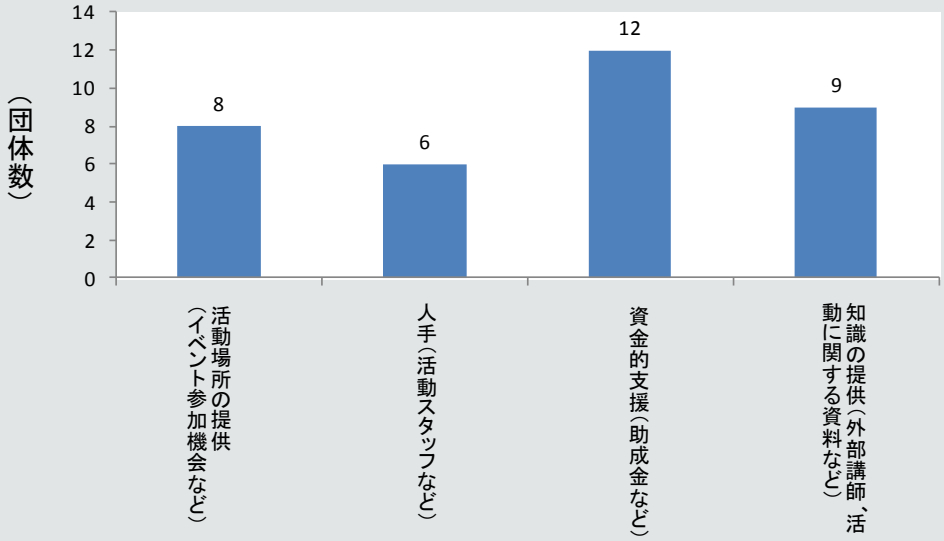


図2.17.　活動の際の団体外部からの支援の有無と支援内容（複数回答可）

生物多様性に関する活動の実施状況　まとめと考察

多くの学生団体が生物多様性に関する活動を実施

アンケートの結果より、生物多様性に関する活動を実施している団体は、環境問題に取り組む団体のうち約半数でした。その内訳としては、生物多様性との関わりを意識している団体（「意識」）と意識して いない団体（「無意識」）が同数存在していました。

活動内容としては、自然環境破壊の防止や里山保全管理などをはじめとして、様々な活動が実施されており、「意識」と「無意識」の団体ごとに実施している活動の種類の違いも見られました。

生物多様性との関わりが認識されていない活動が多く存在

生物多様性に関する活動を実施していても、生物多様性との関わりを認識していない団体も多く存在していました。

その理由としては、団体の活動が、生物多様性と関わりがあること自体知ってはいても、団体の主な目的が別にあるため、活動のなかで特別生物多様性との関わりを意識しながら活動を行っていないことが考えられます。

生物多様性に関する活動を意識して実施している団体の特徴

生物多様性に関する活動を意識的に実施している団体では、そのほとんどが活動フィールドを持っている団体であり、団体外部からの支援を受けているところも多く存在しました。

以上のことを踏まえて、生物多様性わかものネットワークでは、生物多様性に関する活動を促進させるために、下記のような取組が必要だと考えます。

- 環境問題に関する活動を実施しているものの、生物多様性に関する活動は実施していない団体に向けて
  - 「生物多様性保全と持続可能な利用」の重要性の発信
  - 活動をはじめやすい活動モデルの創出
- 生物多様性に関する活動を実施しているものの、活動と生物多様性の関わりを意識していない団体に向けて
  - 既存の活動と生物多様性との関わりの読み解き
- 既に生物多様性に関する活動を意識的に実施している団体に向けて
  - 情報共有や意見交換ができる場の創出などのフォローアップ

第３章
環境・第一次産業活動を行う学生の意識・進路選択について

アンケートの概要

アンケートの構成と目的

本章では、学生団体の現役メンバー向けアンケートと、学生団体のOB・OGメンバー向けのアンケートの2つを取り上げます。アンケートは、①自然環境保全や生物多様性に関する知識、認識の調査　②学生団体の活動を踏まえた進路選択に関する調査の2部構成となっています。

①　自然環境保全や生物多様性に関する知識、認識の調査の目的

同様のアンケートは、内閣府や環境省によって実施されていますが、今回のように“環境や第一次産業に関連する活動を行っている（行っていた）若者”などと対象を絞ったものは実施されていません。
環境や第一次産業に関連する活動を行っている学生は、日頃から自然環境保全や生物多様性に関する知識を得る機会を持つことも多いと考えました。今回、そのような学生が知識を得る方法や、知識の程度を調べ、今後の若者向けの普及啓発のヒントとなるデータを集めるため、この調査を実施しました。

②　学生団体の活動を踏まえた進路選択に関する調査の目的

学生時代に熱い思いを持って活動をしていた人が、就職活動を終えて、卒業する頃にはその熱い思いが失われてしまっていることは少なくありません。その一方で、学生時代の活動がきっかけで、仕事でも関わり続けたいと考えて関連するところに就職したり、仕事以外の場で活動を意欲的に続けたりする人もいます。
環境や第一次産業に関連する様々な問題は、もちろん若者世代だけで解決できるものでもなければ、若者より上の世代だけで解決できるものでもなく、世代間で多くの人が関わり、多様な意見のもと解決が図られるべきものです。したがって、学生時代に活動していた人が、卒業後も環境、第一次産業に対する熱意を持ち続け、活動していくことが非常に重要であると考えます。今回、学生時代の活動に関連することをどれだけの人が卒業後も続けるのかについてや、続けるに当たっての課題などについて、この調査を実施しました。

アンケート項目

アンケートの項目を以下に示します。

1）　回答者の基本情報
2）　自然環境に対する意識について
3）　生物多様性に関する用語の認知度
4）　環境・第一次産業に関する学習の方法
5）　環境・第一次産業に関わる進路選択について

「自然環境に対する意識」について

『生物多様性わかもの白書vol.1』の調査では、環境・第一次産業に関わる活動をしている学生（回答主体は学生団体の代表のみ）の「生物多様性」という言葉に対する認知度が高いという結果が出ました。そこで今回は、「生物多様性」という言葉の定義だけでなく、①生態系サービスの内容の認知度　②日頃の生物多様性に貢献する活動の実施状況について、実態を調査することにしました。

①　生態系サービスの内容の認知度調査

下記の選択肢が、「自然と関わっているか否か」の認識を調査しました。「生物多様性」に関する調査であるというバイアスを取り除く目的で、この表現を用いました。選択肢は、内閣府の調査（※1）から引用しました。

＜選択肢＞

- CO2や大気汚染物質の吸収などの大気や気候を調整する働き
- 水資源の供給、水質浄化などの働き
- 動物・植物など生き物の生息・生育地としての働き
- 紙・木材・肥料などの原材料を供給する働き
- 魚やきのこなどの食料を供給する働き
- 肥沃な土壌を形成し、維持する働き
- 薬の開発や品種改良のもととなる遺伝資源を供給する働き
- 芸術の題材や山岳信仰の拠り所となるなどの、文化的、精神的な働き
- レクリエーション・観光の場を提供する働き

②　日頃の生物多様性に貢献する行動の実施状況

2問目では、下記の行動を、「日頃から行っている」、「行いたいと思っているがなかなかできていない」、「行ったことはある」、「行ったことがない」に振り分けてもらいました。行動の内容は、内閣府の調査（※2）から引用しました。

＜行動＞

- 節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む
- 旬のもの、地のものを選んで購入する
- 生きものを最後まで責任を持って育てる
- 環境に配慮した商品を優先的に購入する
- 身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう
- 自然保護活動や美化活動に参加する
- 自然や生きものについて、家族や友人と話し合う
- エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加する

※1　http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-kankyou/
平成26年度「環境問題に関する世論調査」　3. 生物多様性　(5)生態系サービスの価値に対する意識

※2　http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-kankyou/　（※1と同じ）
平成26年度「環境問題に関する世論調査」　3. 生物多様性　(8)生物多様性に配慮した生活のための今後の取組

アンケート結果

回答者の基本情報

現役学生

この調査では、193名による回答を得ることができました。
性別、学年（2017年1月時点）は以下のとおりです。

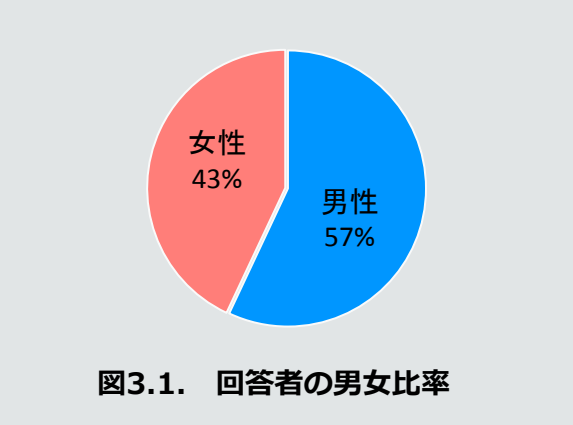


図3.1.　回答者の男女比率

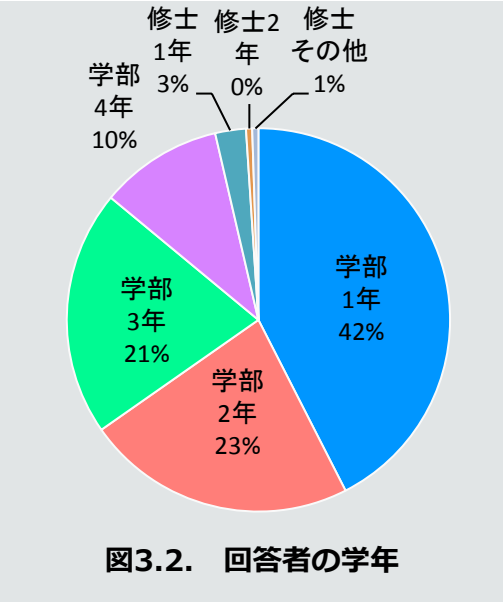


図3.2.　回答者の学年

回答者の専攻について、理系が約7割を占めていました。資源・地球環境系が最も多く（34名）、次に建築・土木系（22名）、生物・生命工学系と生態学系（それぞれ17名）と続きました。

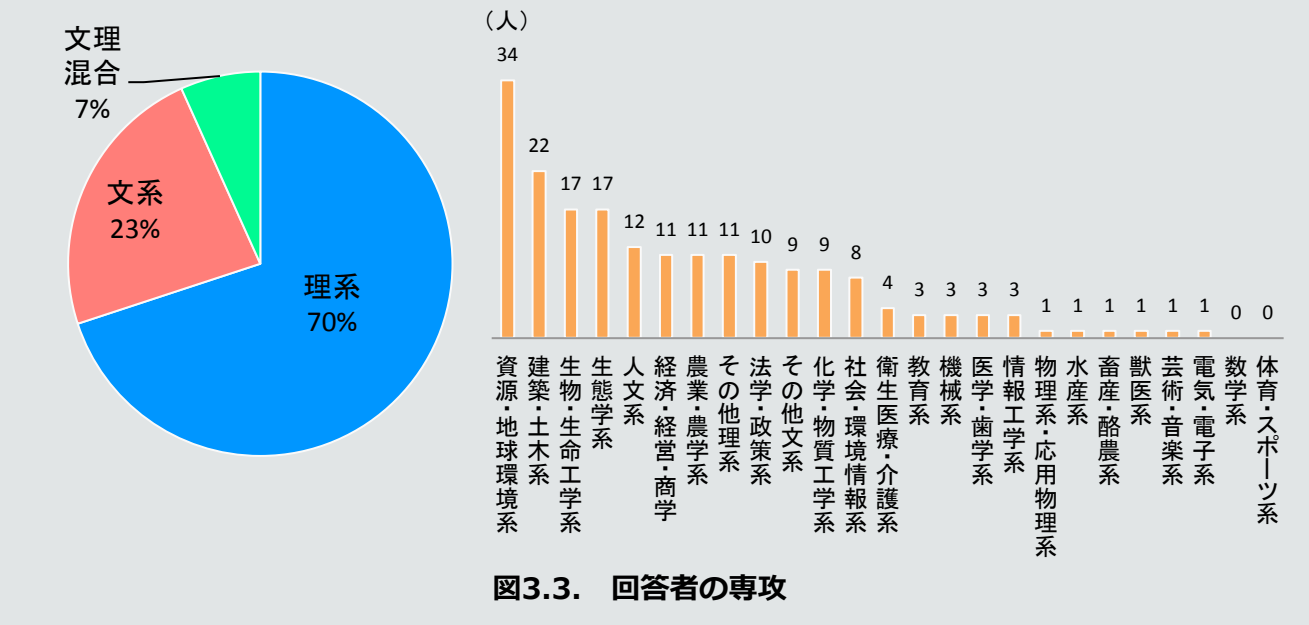


図3.3.　回答者の専攻

回答者の出身地について、東京都・愛知県がそれぞれ30名と最も多く、神奈川県（24名）、千葉県（23名）、埼玉県（21名）、静岡県（17名）と続きました。10名以下の県は表3.1.に示します。記載のない県は該当なしでした。

岐阜県	8名
茨城県	6名
大阪府	5名
三重県	4名
栃木県、群馬県、長野県	各3名
北海道、山形県、富山県	各2名
岩手県、宮城県、福井県、山梨県、京都府、島根県、岡山県、愛媛県、福岡県、沖縄県	各1名

表3.1.
回答者の出身地
（10名以下の道府県）

OB・OG

この調査では、43名による回答を得ることができました。
性別、社会人歴（2017年1月時点）は以下のとおりです。

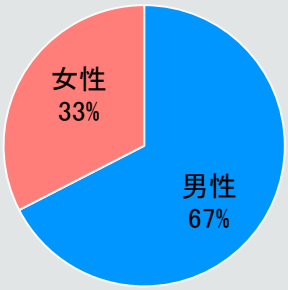


図3.4.　回答者の男女比率

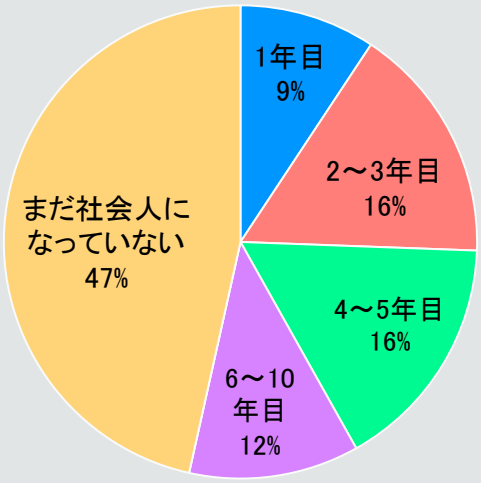


図3.5.　回答者の社会人歴

回答者の専攻について、理系が6割強を占めていました。生態学系が最も多く（9名）、次に資源・地球環境系（7名）、法学・政策系（6名）と続きました。

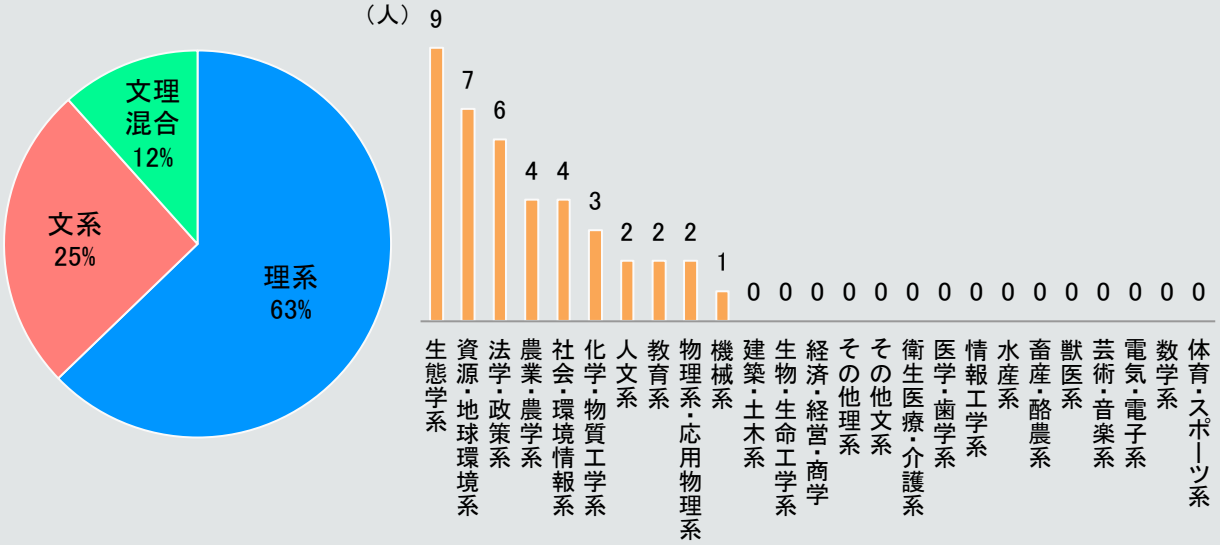


図3.6.　回答者の専攻

回答者の出身地について、東京都・大阪府がそれぞれ7名と最も多く、神奈川県（5名）、千葉県と静岡県（各4名）と続きました。回答者全員の出身地を表3.2.に示します。

東京都、大阪府	各7名
神奈川県	5名
千葉県、静岡県	各4名
兵庫県	3名
茨城県、埼玉県、和歌山県	各2名
宮城県、群馬県、長野県、岐阜県、愛知県、岡山県	各1名

**表3.2.
回答者の出身地
（全員）**

現在特に関心がある環境・第一次産業の分野

現在特に関心がある環境・第一次産業の分野を複数選択で選んでもらいました。
現役学生の回答では、「自然・生態系・生物多様性」が120件（回答者の62%）と最も多く、次に「気候変動・地球温暖化」が89件（回答者の46%）と続きました。

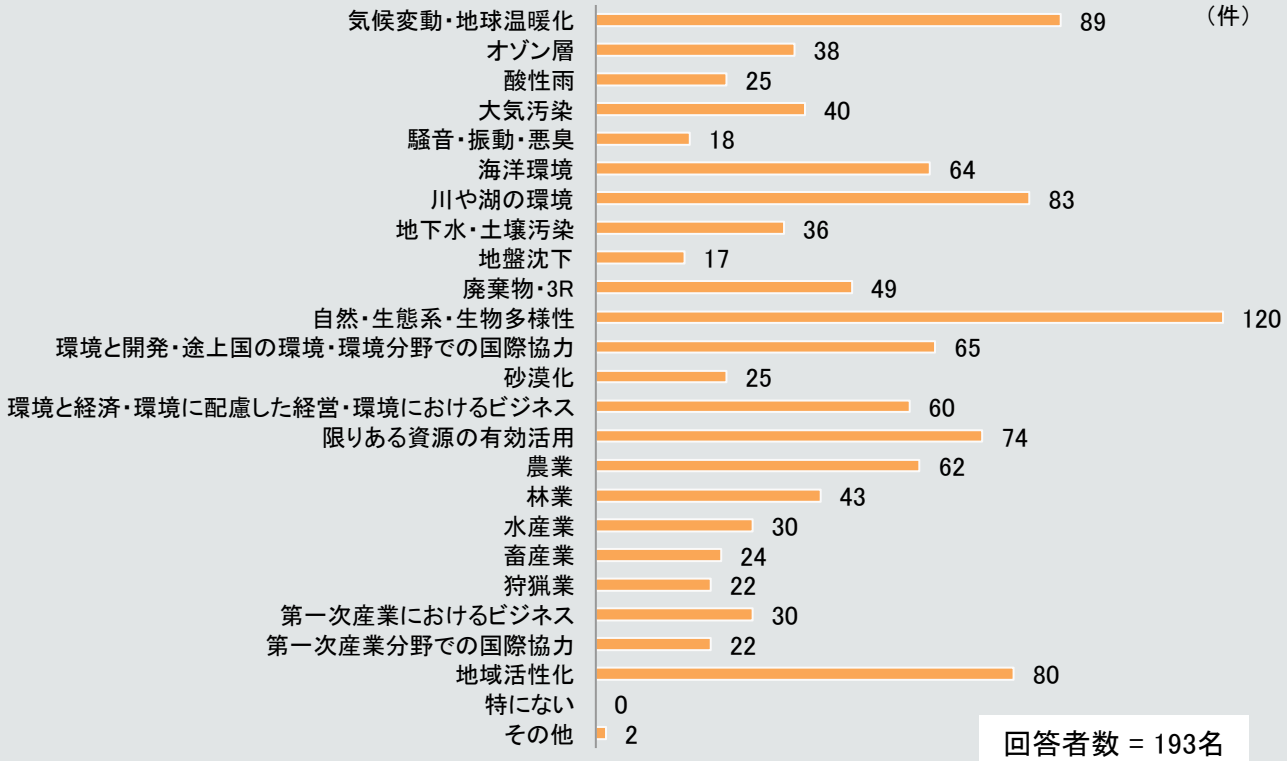


図3.7.　現役学生の関心分野

OB・OGの回答では、現役学生の回答と同じく「自然・生態系・生物多様性」が22件（回答者の51%）と最も多く、次に「環境と経済・環境に配慮した経営・環境におけるビジネス」が18件（回答者の42%）と続きました。

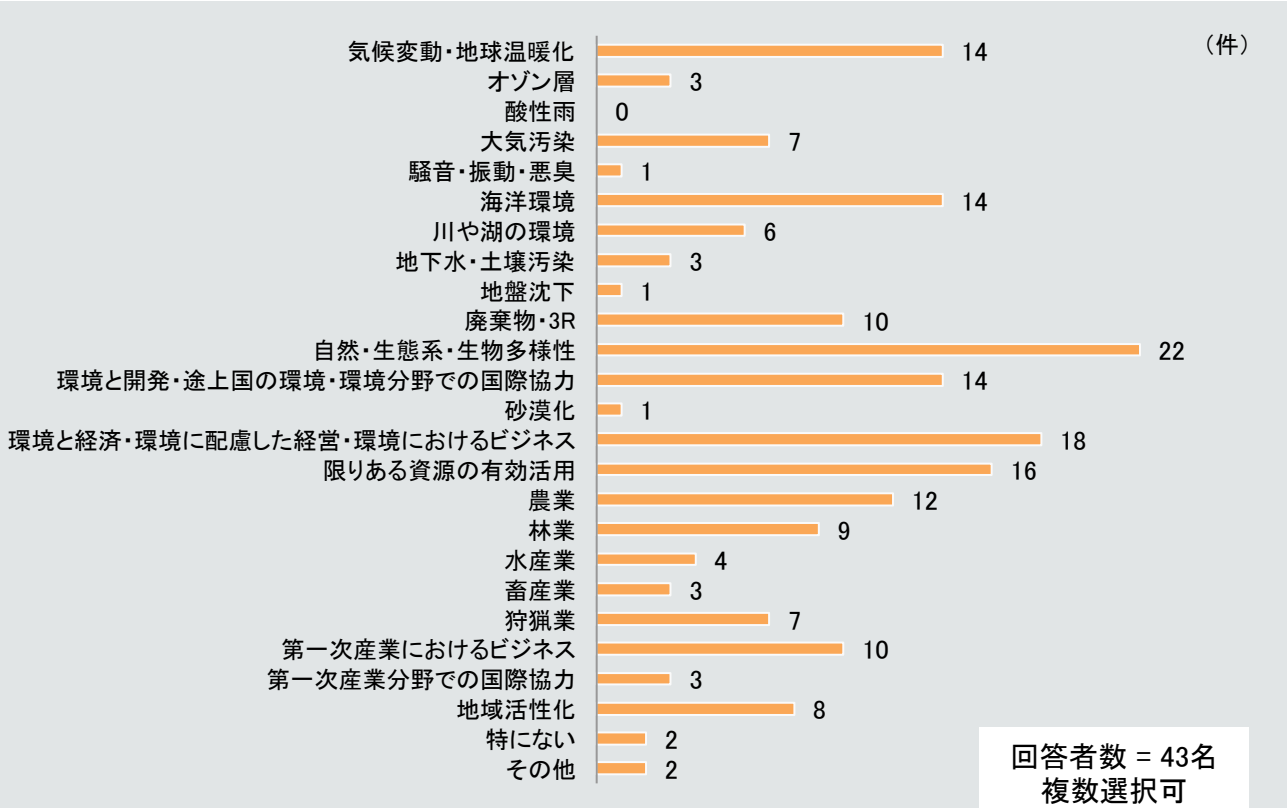


図3.8.　OB・OGの関心分野

自然環境保全や生物多様性に関する知識、認識の調査

この調査では、現役学生とOB・OGの間で大きな違いは見られなかったことと、“環境や第一次産業に関連する活動を行っている（行っていた）若者”の意識を調べることが目的であることから、現役学生対象の調査とOB・OG対象の調査結果を区別せずにまとめました。回答者数は236名です。

自然環境に対する意識について

①　生態系サービスの内容の認知度

生態系サービスの具体的な内容についてどれだけ認識されているかを確かめるため、生態系サービスの具体的な内容を羅列し、羅列された中で「自然と関わりがあると思うもの」を全て選択してもらいました。つまり、正しい認識であれば、すべての選択肢を選択することになります。

「動物・植物など生き物の生息・生育地としての働き」、「水資源の供給、水質浄化などの働き」が、それぞれ92%、85%の人に認知されているのに比べ、「芸術の題材や山岳信仰の拠り所となるなどの、文化的、精神的な働き」、「薬の開発や品種改良のもととなる遺伝資源を供給する働き」は50%台と、大きく差がありました。

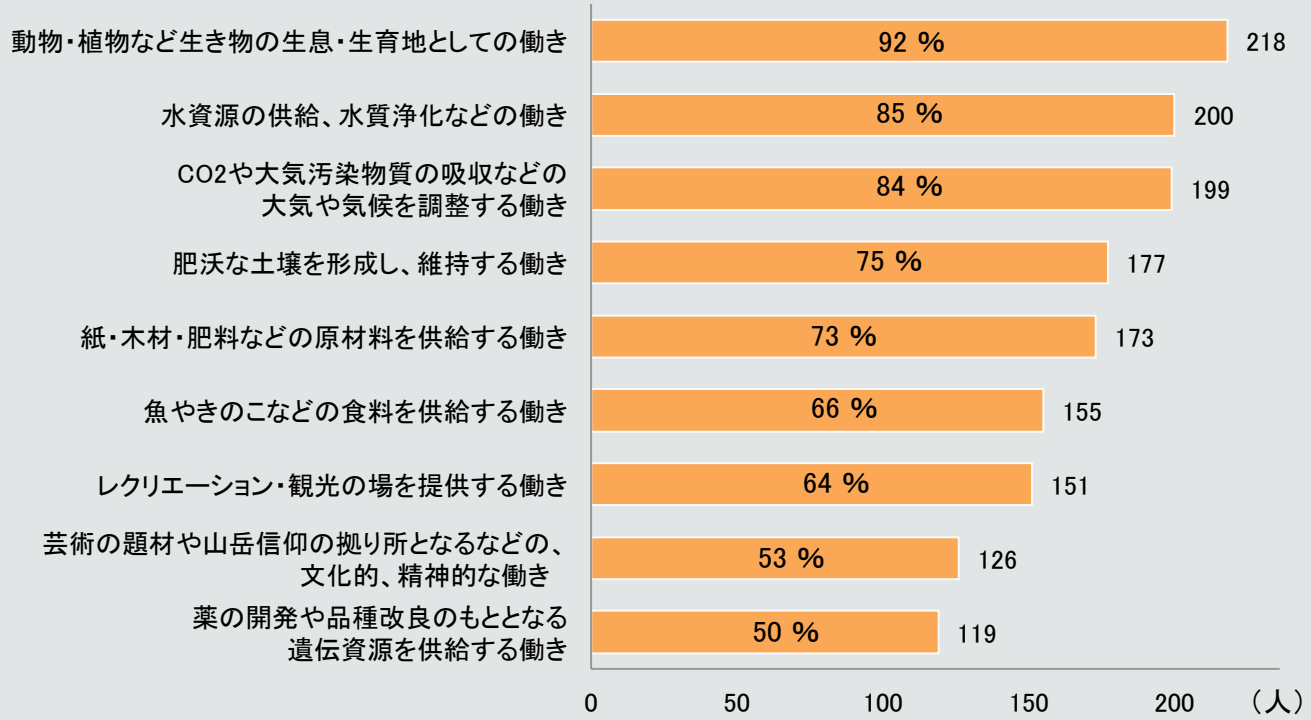


図3.9.　生態系サービスの内容の認知度

総数 = 236人

上記の質問で選択したものについて、近年減少していると思うことがあるかどうかという質問では、85%の人が減少していると思う（「すごくある」、「まあまあある」の合計）と回答しました。

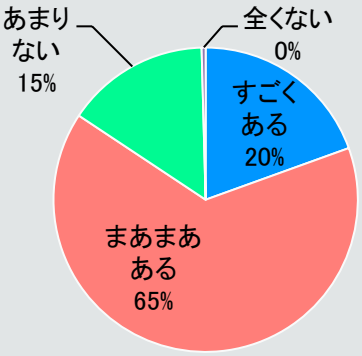


図3.10.
生態系サービスの内容の減少の実感

選択してもらった自然の働きについて、将来世代に残すために必要な行動を自由記述で回答してもらいました。分類すると、主な回答は以下の通りとなりました。

最も多かったのは、「広報等を通した普及啓発」で、41名（全体の17%）が回答しました。「環境教育」と回答した26名のうち5名は、「学校の授業での環境教育」と回答していました。

自然の働きを将来世代に残すために必要な行動について	該当人数（人）	全体の中での割合
広報等を通した普及啓発	41	17%
自然環境の管理・保全・再生	37	16%
環境教育	26	11%
日頃からの省エネなど、個人でできることをする	20	8%
各個人の意識改革	18	8%
自然の役割や現状を学び、理解する	12	5%
法規制等の政府による働きかけ	10	4%
企業と自治体、NPOなどのセクターを超えた連携	8	3%
科学技術の進歩	6	3%
子供に自然を体験する機会を与える	6	3%
環境団体等の活動に積極的に参加する	6	3%
資源の持続可能な利用	6	3%

表3.3.　自然の働きを将来世代に残すために必要な行動（自由記述を分類）

回答者数 = 236人

②　日頃の生物多様性に貢献する行動の実施状況

日頃からできる生物多様性に貢献する行動の実施状況について質問しました。「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む」は多くの人が実施しているのに比べ、「エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加する」は行ったことがない人が目立ちました。

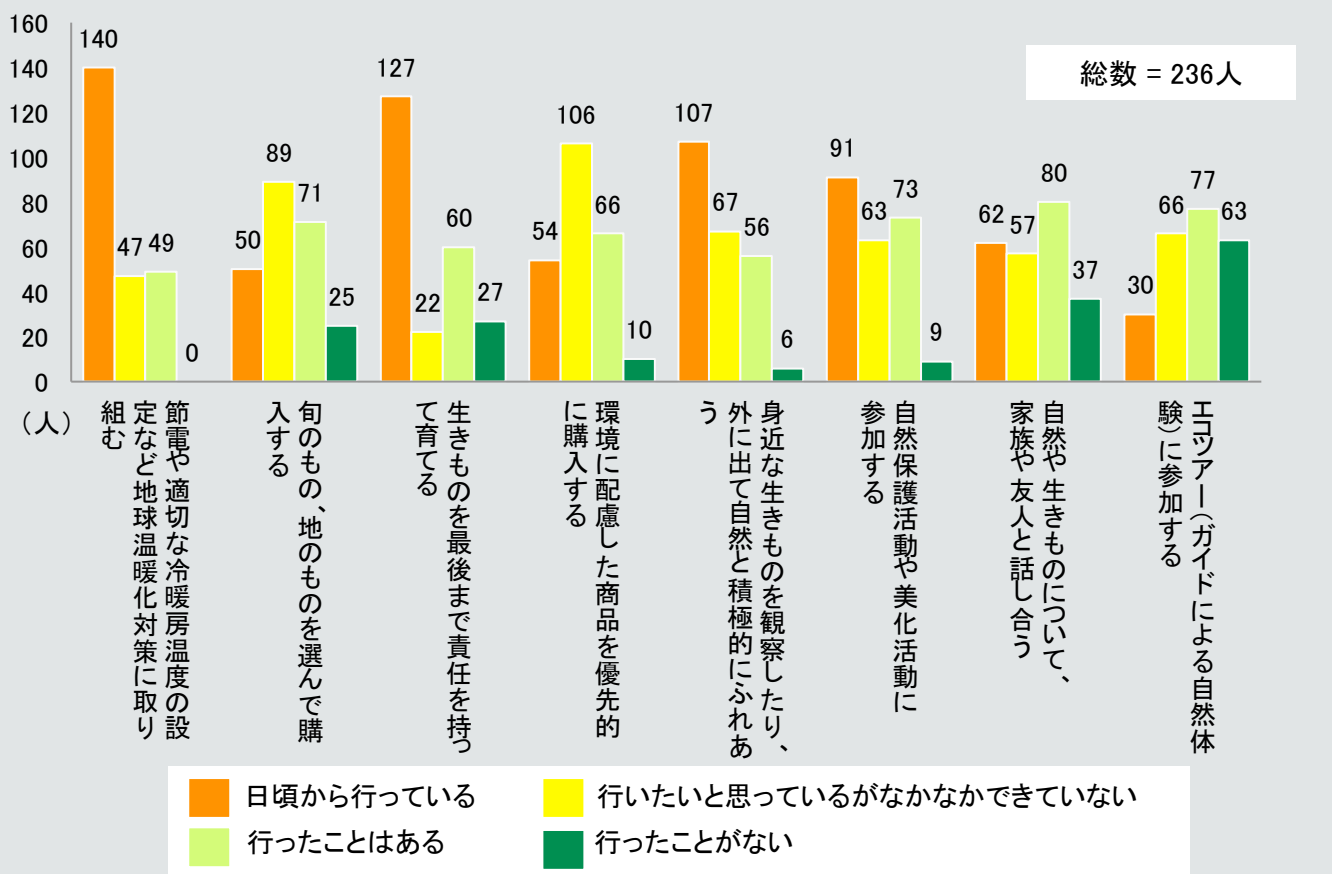


図3.11.　日頃の生物多様性に貢献する活動の実施状況

生物多様性に関する用語の認知度

「生物多様性」「愛知ターゲット」「生物多様性国家戦略」

生物多様性に関するキーワード「生物多様性」「愛知ターゲット（※1）」「生物多様性国家戦略」について、どの程度知っているのかを回答してもらいました。どの用語についても、内閣府の世論調査の結果（※2　濃い灰色の四角で囲まれた部分）と比較して、認知度は高い水準となりました。

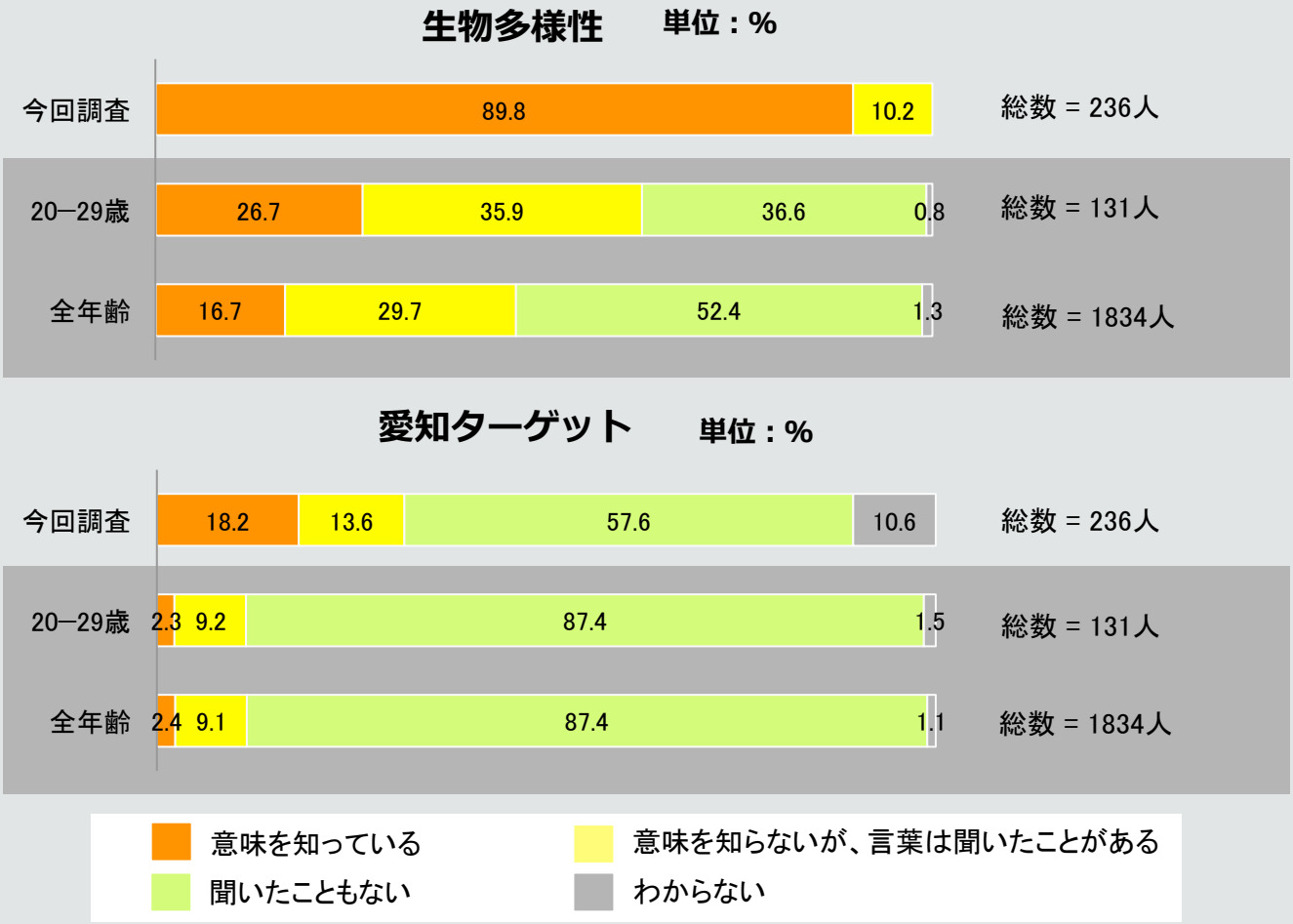


図3.12.　「生物多様性」「愛知ターゲット」の認知度

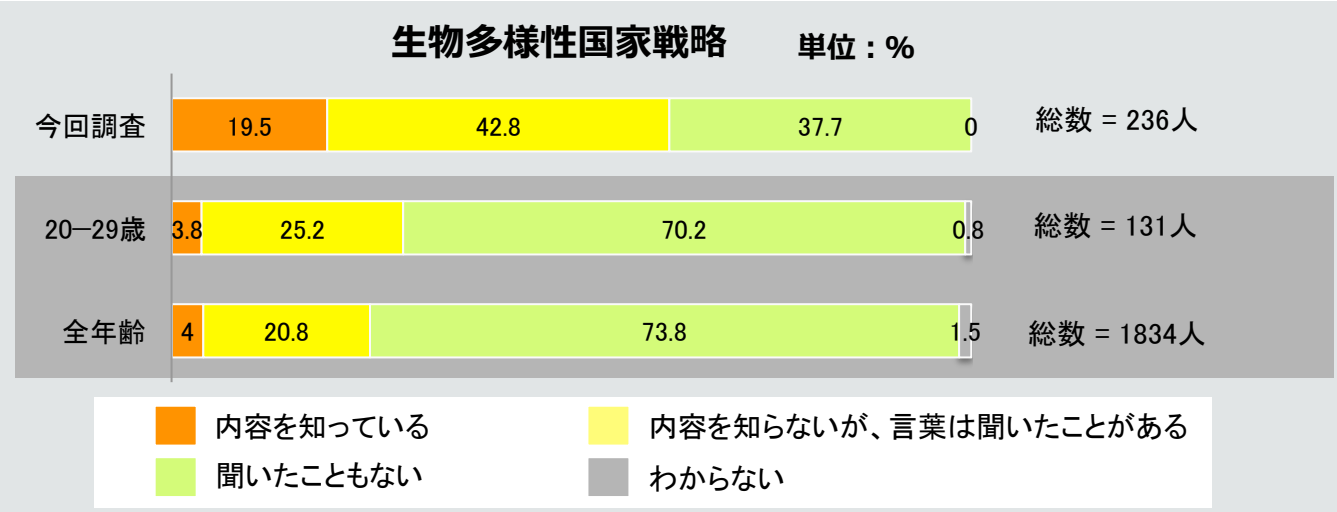


図3.13.　「生物多様性国家戦略」の認知度

※1　内閣府の調査では、「愛知目標」
※2　http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-kankyou/
平成26年度「環境問題に関する世論調査」　3. 生物多様性　(1)～(3)生物多様性・生物多様性国家戦略・愛知目標の認識度

環境・第一次産業に関する学習の方法　（現役学生のみの調査）

現役学生が環境・第一次産業に関する知識を得るために、どのような手段を使っているかを複数選択で回答してもらいました。学部や学科の授業が122件（回答者の63%）と最も多く、団体内での勉強会が93件（回答者の48%）、本やインターネットを通して独学が82件（回答者の42%）と続きました。

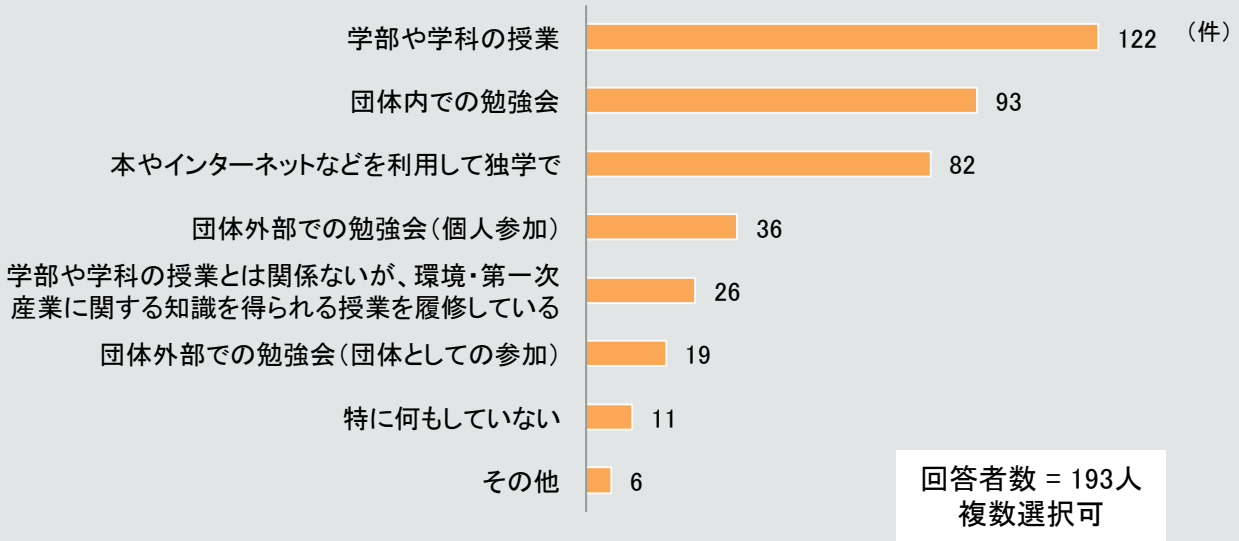


図3.14.　環境・第一次産業に関する学習の方法

自然環境保全や生物多様性に関する知識、認識の調査　まとめと考察

知識の深さについて

P.30で示した通り、世論調査と比較して、環境や第一次産業に関連する活動を行っている（行っていた）若者の「生物多様性」という言葉の認知度は非常に高いものでした。しかしながら、P.28で示したように、生態系サービスの内容の認知度にはばらつきが見られました。また、「愛知ターゲット（愛知目標）」「生物多様性国家戦略」といった用語に関しては、世論調査と比較すると高い水準で認識されているものの、「聞いたこともない」との回答がぐっと増えました。

つまり、「生物多様性」に関しては認識されているものの、具体的にどういったものなのか、また、どのような施策がとられているかまでは認識があまり進んでいないことがわかりました。

購買行動を変えることの難しさ

P.29の日頃の生物多様性に貢献する行動の実施状況を見ると、特に「旬のもの、地のものを選んで購入する」、「環境に配慮した商品を優先的に購入する」の回答に、「行いたいと思っているがなかなかできていない」というものが目立ちました。

それに対して、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む」、「身近な生き物を観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう」といった、費用をあまり要しないものは「日頃から行っている」という回答が多くありました。

環境や第一次産業に関する活動を行っている人であっても、購買行動を変えるまでは高いハードルがあることが推察されました。

以上より、生物多様性わかものネットワークでは、人々の生物多様性の認知度や理解を深めるため、下記のような取組が有効であると考えます。

- 生物多様性について、言葉だけでなく内容や施策についてまで理解するための講座の開催

P.31で示したように、多くの人は学部や学科の授業または団体内での勉強会で、環境・第一次産業に関する知識を得ています。特に団体内での勉強会は、一般的に学部や学科の授業に比べ、外部の講師を呼んで開催する等、必要に応じて対応を変化させるのも容易であると考えられます。

したがって、学生団体に出前講演を行う等の取り組みを行うことで、効果的に生物多様性について認知度を上げることができると考えられます。

購買行動まで変えることに直接は結びつかないかもしれませんが、まずはしっかりと現状を知ってもらうことが重要であると考えます。

学生団体の活動を踏まえた進路選択に関する調査

環境・第一次産業に関する活動が、どれほど将来の進路選択に影響するかを調べるため、現役学生とOB・OGそれぞれにアンケートを取りました。結果は現役学生とOB・OGで区別します。

現役学生

卒業後、関係分野に関わり続けるかどうかの意志

現役学生に、卒業後に環境・第一次産業に関連する分野に関わり続けたいか聞いたところ、約85%（163名）の人が関わり続けたいと回答しました。また、全体の約67%（129名）の人が、今の活動分野または興味分野が活きる分野で関わり続けたいと回答しました。

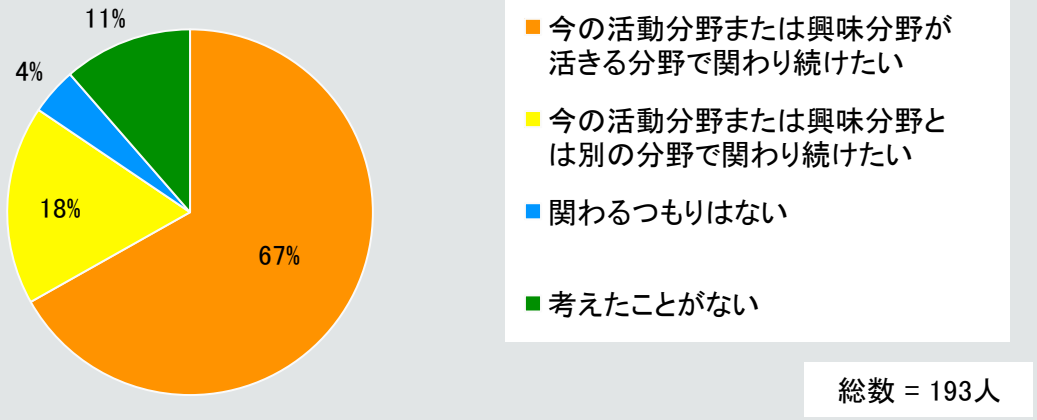


図3.15.　現役学生が関連分野に関わり続けるかどうかの意志

関わる形態

関わり続けたいと回答した163名に対して、どのような形態で関わり続けていきたいか聞いたところ、「仕事として」、「仕事以外の場で」、「仕事、仕事以外の両方で」の3つの選択肢に対する回答がほぼ同数でした。

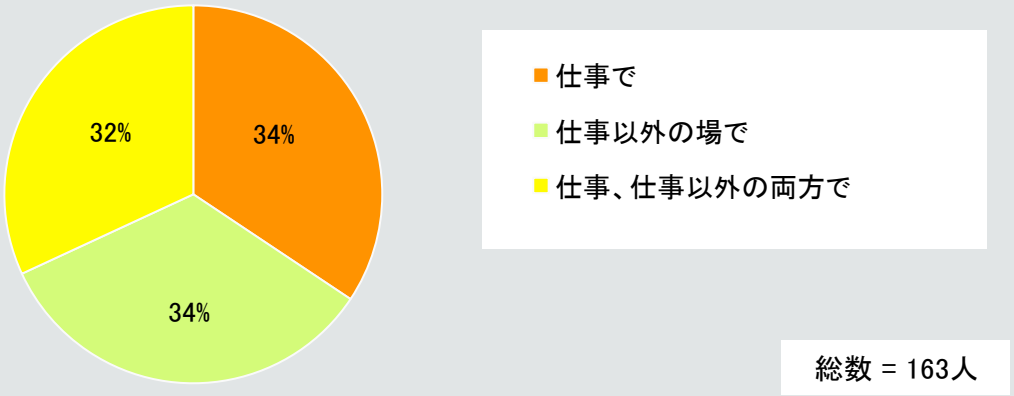


図3.16.　関連分野に関わり続けたい現役学生が関わり続ける際の形態

OB・OG

卒業後、関係分野に関わり続けているか

学生団体のOB・OGに、環境・第一次産業に関わる活動を続けているかどうか聞いたところ、約37%（16名）の人が続けていると回答しました（「仕事として続けている」、「仕事以外の場で続けている」、「仕事、仕事以外の両方で続けている」の合計）。まだ就職していない人（グラフの灰色の部分）を除いた現役社会人（24名）の中では、約67%の人が続けているということになります。

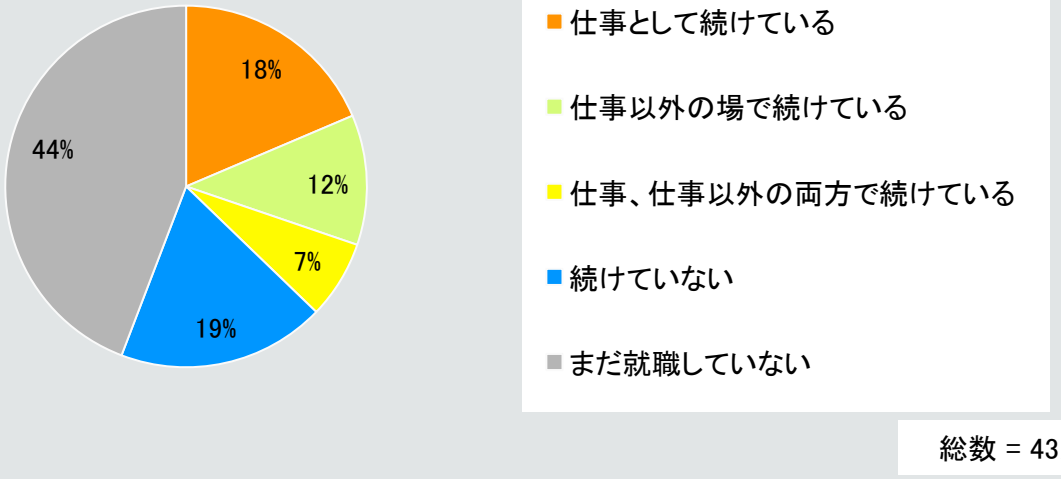


図3.17.　OB・OGが関係分野に関わり続けているかとその形態

まだ就職していないが、就職先が決まっているOB・OGについて

アンケートで、まだ「就職していない」と答えた学生団体のOB・OGのなかで、就職先が決まっている9名にも環境・第一次産業に関わる活動を続ける予定か質問しました。約66%（6名）が続ける予定であると回答しました。

したがって、まだ就職していないかつ、就職先が決まっていない人を除いた、現役社会人と就職先が決まっている人の合計（33名）の中では、約67%（22人。現役社会人が16人、就職先が決まっている人が6人）の人が続けているか続ける予定が決まっているということになります。

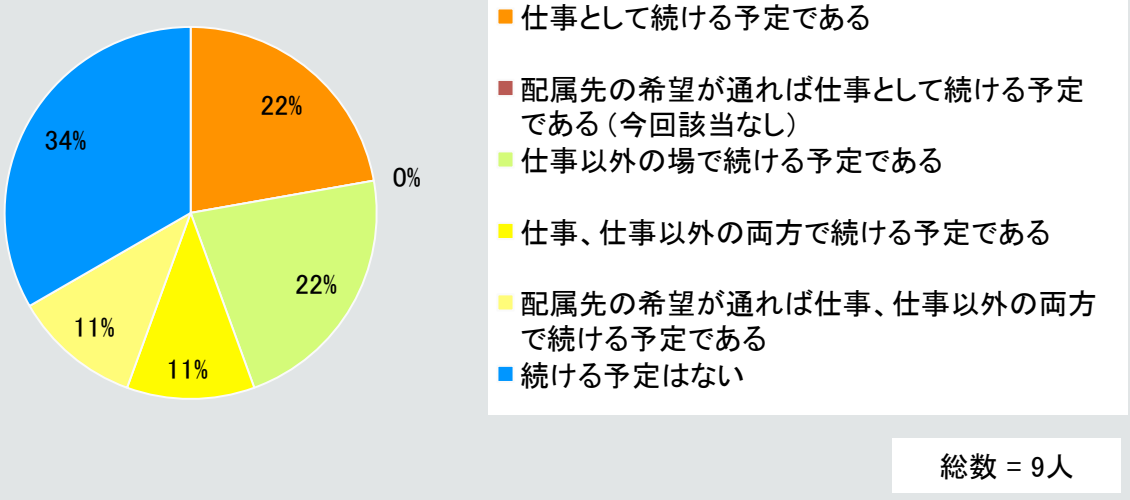


図3.18.　まだ就職しておらず就職先が決まっている人が、関係分野に関わり続ける予定かとその形態

現役学生

卒業後、関係分野に関わり続けられる可能性について

卒業後も環境・第一次産業に関連する分野に「関わり続けたい」と回答した現役学生（163名）と、「関わるつもりはない」と回答した現役学生（8名）に、関わり続けることがどれくらい可能だと思うか、4段階で評価してもらいました（1が最も不可能、4が最も可能）。約75%の人がどちらかと言えば可能（3と4の合計）と回答しました。

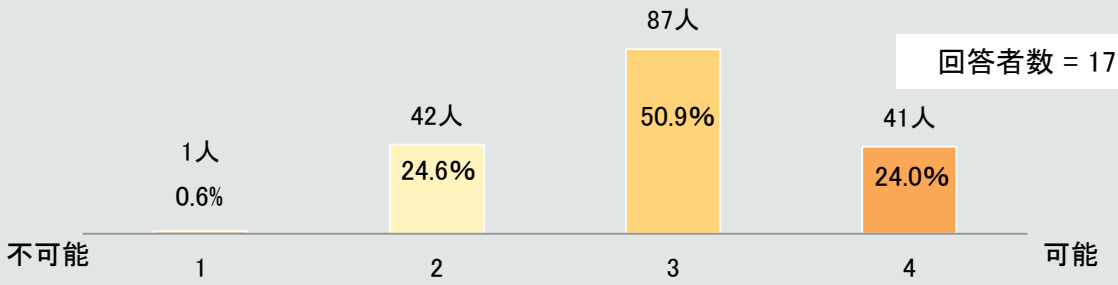


図3.19.　卒業後も関連分野に関わり続けられる可能性について 現役学生による評価

「環境・第一次産業に関わり続けることがどれくらい可能だと思うか」の質問に対して、4段階評価のうち、なぜその点数を選択したのか、自由記述で記入してもらいました。分類すると、主な回答は以下の通りでした。

積極的に続けたい理由としては、「興味・意志があれば続けられると思うから」という主旨の回答が多く見られました。逆に、続けられるかわからない理由としては、「仕事やその他のこととの両立ができるかわからない」という主旨の回答が多く見られました。

4段階	理由	該当人数（名）	その点数の中での割合
4（41名）	興味・意志があれば続けられると思うから	14	34%
	環境・第一次産業に関わる仕事に就くつもりだから	14	34%
	生活の中で環境・第一次産業に関わらずにはいられないから	3	7%
	環境・第一次産業に関わる仕事は今後も重要だと思うから	2	5%
	環境・第一次産業の専門知識を持っているから	2	5%
	今までもできていたから、今後もできると思うから	2	5%
	時間があるから	1	2%
3（87名）	興味・意志があれば続けられると思うから	17	20%
	仕事以外で関わることになると二の次になってしまい、本当にできるのかわからないから	14	16%
	就職活動が思い通りに行くかわからないから	11	13%
	環境・第一次産業に関わる仕事に就くつもりだから	8	9%
	将来をまだ予測できないから	5	6%
	先輩が卒業後も続けているので、自分も続けられると思うから	3	3%
	他にもやりたいことがあり、両立できるかわからないから	3	3%
	仕事として関わろうとすると、収入が足りるのかわからないから	3	3%
	環境・第一次産業に関わる仕事は多くあるから	2	2%
	環境・第一次産業の専門知識を持っていないから仕事にできないと思うから	1	1%
2（42名）	仕事以外で関わることになると二の次になってしまい、本当にできるのかわからないから	8	19%
	他にもやりたいことがあり、両立できるかわからないから	8	19%
	就職活動が思い通りに行くかわからないから	8	19%
	将来をまだ予測できないから	5	12%
	仕事として関わろうとすると、収入が足りるのかわからないから	2	5%
	環境・第一次産業の専門知識を持っていないから仕事にできないと思うから	2	5%
1（1名）	他にもやりたいことがあり、両立できるかわからないから	1	–

表3.4.　卒業後も関連分野に関わり続けられる可能性について 現役学生による評価の理由（自由記述を分類）

回答者数 = 171人

卒業後、関係分野に関わり続けるにあたっての障害

卒業後も環境・第一次産業に関連する分野に「関わり続けたい」と回答した現役学生（163名）と、「関わるつもりはない」と回答した現役学生（8名）に、卒業後、環境・第一次産業に関連する分野に関わり続けるにあたって、障害・課題と思うことを自由記述で記入してもらいました。分類すると、主な回答は以下の通りでした。
「仕事と両立するにあたって、時間が作れるのか」という主旨の回答が40人と最も多かったのに対し、「特に障害・課題と思うことはない」という回答も25人と、比較的多くの人が回答していました。

環境・第一次産業関連分野に関わり続けるにあたって障害・課題と思うこと	該当人数（人）	全体の中での割合
仕事と両立するにあたって、時間が作れるのか	40	23%
周りの人を巻き込むのが難しい	19	11%
仕事以外の場で続ける場合の費用負担	16	9%
仕事として続ける場合、所得が十分でない	16	9%
環境・第一次産業分野はビジネスとして成立しづらい	11	6%
専門知識の不足	10	6%
続けられる場が少ない	7	4%
モチベーションの維持が難しい	6	4%
環境・第一次産業分野に関連する職業の選択肢が少ない	4	2%
就職の希望が通らない場合がある	4	2%
特に障害・課題と思うことはない	25	15%
わからない	4	2%

表3.5.　現役学生が卒業後も関連分野に関わり続けるにあたっての障害・課題（自由記述を分類）

回答者数 = 171人

卒業後、関係分野に関わりつもりはない理由

現役学生に、卒業後に環境・第一次産業に関連する分野に関わり続けたいか聞いたところ、4%（8名）の人が「関わるつもりはない」と回答しました。その理由を自由記述で記入してもらいました。分類すると、以下の通りでした。

- 環境・第一次産業に関係のない仕事に就く予定であるため（2名）
- 活動するための余力・時間が取れないため（2名）
- 他にやりたいことがあるため（2名）
- 環境・第一次産業に関連する活動は収入につながりにくいため（1名）
- 専攻が環境・第一次産業に関係がないため（1名）
- 現在の活動を通して、自分は向いていないと思うため（1名）

OB・OG

就職活動のときについて

関連分野に関わる仕事に就く意志

現役社会人全員に、就職活動の際に、環境・第一次産業に関わる仕事に就きたいと考えていたかを4段階で評価してもらいました。半分の人がすごく考えていた（4段階の4）と回答しました。

どちらかと言えば考えていた人（3と4の合計）の合計は約79.2%で、P.33で述べた、現役社会人の中で実際に活動を続けている人の割合（約67%）、仕事として続けている人の割合（約45%）より高い値となりました。

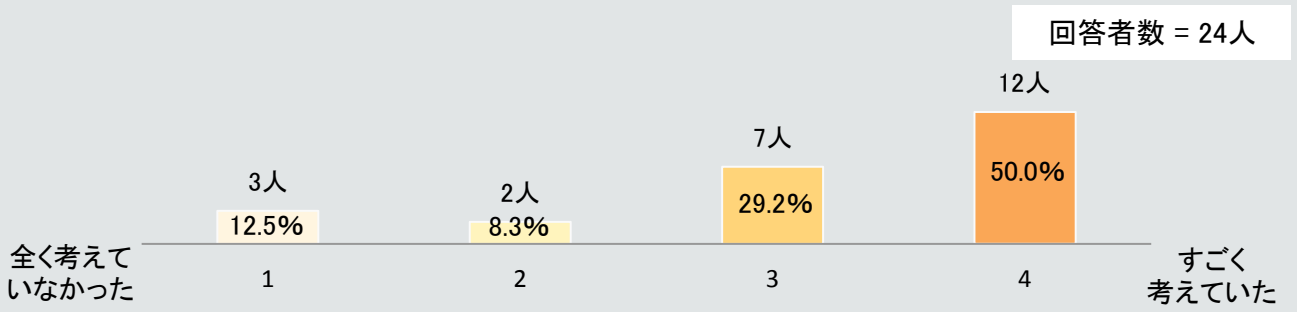


図3.20.　就職活動の際の、関連分野に関わる仕事に就く意志
OB・OGによる評価

「環境・第一次産業に関わる仕事に就きたいと考えていたか」の質問に対して、4段階評価のうち、なぜその点数を選択したのか、自由記述で記入してもらいました。分類すると、主な回答は以下の通りでした。

積極的に関連分野に就職したい理由としては、「関わり続けることで、環境問題を解決・改善したいと考えていたため」という主旨の回答が比較的多くの人から得られました。逆に、あまり関連分野に就職したいと考えていない理由としては、収入面の不安が複数挙げられました。

4段階	理由	該当人数	その点数の中での割合
4（12名）	関わり続けることで、環境問題を解決・改善したいと考えていたため	5	42%
	自分のスキル・ネットワーク・知識を活かせる職だから	2	17%
	環境・第一次産業に興味があるから	2	17%
	特に他に興味のあることがないから	1	8%
3（7名）	環境・第一次産業に興味があるから	3	43%
	学生時代に行っていた活動を続けたいと思ったから	2	29%
	最初は別の仕事で、その経験を活かして関連分野の仕事に就きたいと考えたため	1	14%
2（2名）	仕事として続けるには、収入面で不安があったため	1	50%
	もともと社会人になったら仕事以外の場で続けるつもりだったから	1	50%
1（3名）	他の職業に就くと決めていたため	1	33%
	仕事にしたいほど興味がなかったため	1	33%
	仕事として続けるには、収入面で不安があったため	1	33%

表3.6.　就職活動の際の、関連分野に関わる仕事に就く意志
評価の理由（自由記述を分類）

回答者数 = 24人

卒業後も関係分野に関わり続けるにあたっての障害

現役社会人全員に、環境・第一次産業に関連する分野に関わり続けるにあたって、障害・課題と思うことを自由記述で記入してもらいました。分類すると、主な回答は以下の通りでした。
「環境・第一次産業はビジネスとして成立しづらい」、「仕事として続ける場合、所得が十分でない」、「仕事以外の場で続ける場合の費用負担、活動資金の不足」などの、金銭面に関する意見が多く出ました。

環境・第一次産業関連分野に関わり続けるにあたって 障害・課題と思うこと	該当人数 （人）	全体の中での 割合
環境・第一次産業分野はビジネスとして成立しづらい	4	17%
仕事として続ける場合、所得が十分でない	3	13%
環境・第一次産業に関連する職業の選択肢が少ない	3	13%
続ける場合に時間的余裕があるのか	3	13%
業務内容のミスマッチにより、思っていた仕事と違う可能性がある	2	8%
モチベーションの維持が難しい	2	8%
仕事以外の場で続ける場合の費用負担、活動資金の不足	2	8%
特に障害・課題と思うことはない	3	13%
わからない	1	4%

表3.7.　現役社会人が考える卒業後も関連分野に関わり続けるにあたっての障害・課題（自由記述を分類）

回答者数 = 24人

関連分野の活動を続けない人について

今後、関連分野に関わる活動を再開する意志

現役社会人のうち環境・第一次産業の活動を続けていない人（8名）と、まだ就職していないが、就職しても続ける予定がない人（3名）に、環境・第一次産業に関する活動に再び関わりたいか質問しました。
9名が「すごく思う」または「まあまあ思う」と前向きの回答であったのに対し、2名は「あまり思わない」と回答しました。「全く思わない」と回答した人はいませんでした。

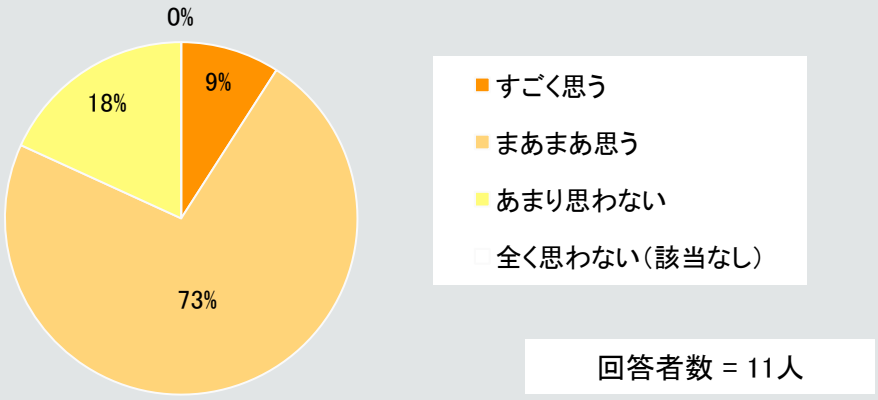


図3.21.　関連分野の活動に再び関わる意志

再開の意志がない理由

環境・第一次産業に関する活動に再び関わりたいと「あまり思わない」と回答した2人にその理由を聞くと、以下の通りでした。

- 就職した分野が環境・第一次産業とは遠く、忙しくて時間がないため
- もともと他のことに興味があるため

関連分野の活動を再開する際の形態

環境・第一次産業に関する活動に再び関わりたいと「すごく思う」、「まあまあ思う」と回答した9人に、関わる際の形態について質問したところ、5名が「仕事以外の場で」、4名が「仕事、仕事以外の両方で」と回答しました。

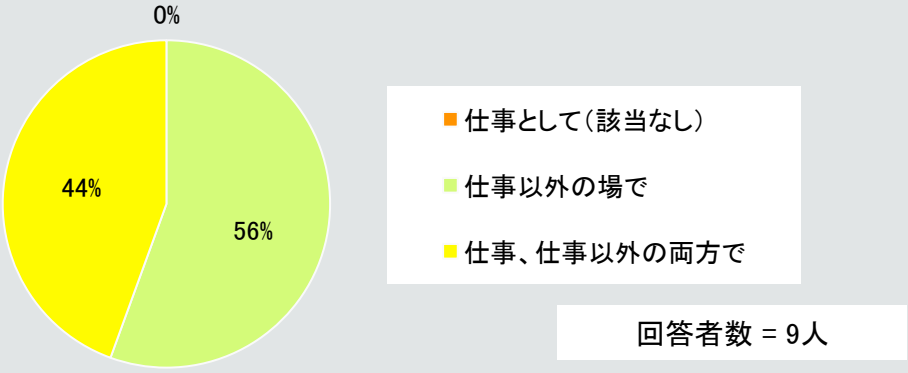


図3.22.　関連分野の活動に再び関わる際の形態

今後、関連分野に関わる活動を再開できる可能性

環境・第一次産業に関する活動に再び関わりたいと「すごく思う」、「まあまあ思う」と回答した9人に、関わることがどれだけ可能だと思うか、4段階で評価してもらいました。6名が2（どちらかと言えば不可能）、3名が3（どちらかと言えば可能）と回答しました。

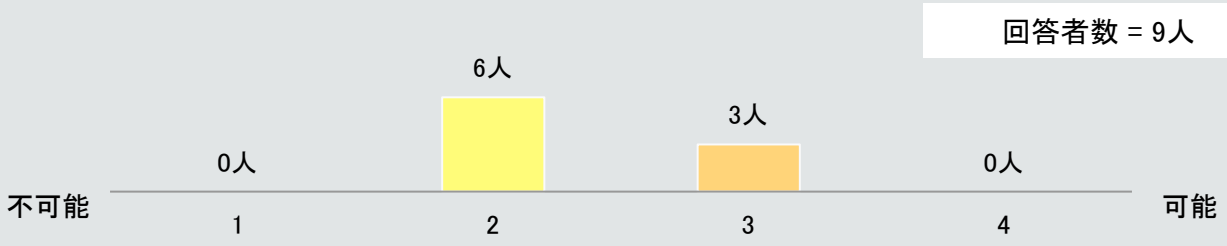


図3.23.　関連活動を再開できる可能性

4段階の選択について、その理由を聞くと、2を選んだ人は全員が、「仕事との兼ね合いで、活動する余裕がなさそうなため」との主旨の回答でした。3を選んだ人は、「職場に環境系の仕事があるため」、「無理なく生計を立てながらほどほどに活動をしたいため」と回答していました。

就職活動の際の情報収集手段について

現役社会人と、まだ就職していないが就職先が決まっている学生（24名）に、就職活動の際に主にどこで仕事の情報を得ていたか、複数選択で選んでもらいました。

リクナビ、マイナビなどの就活支援サイトと、会社のHP、また、知り合いから聞いたという回答が多くありました。

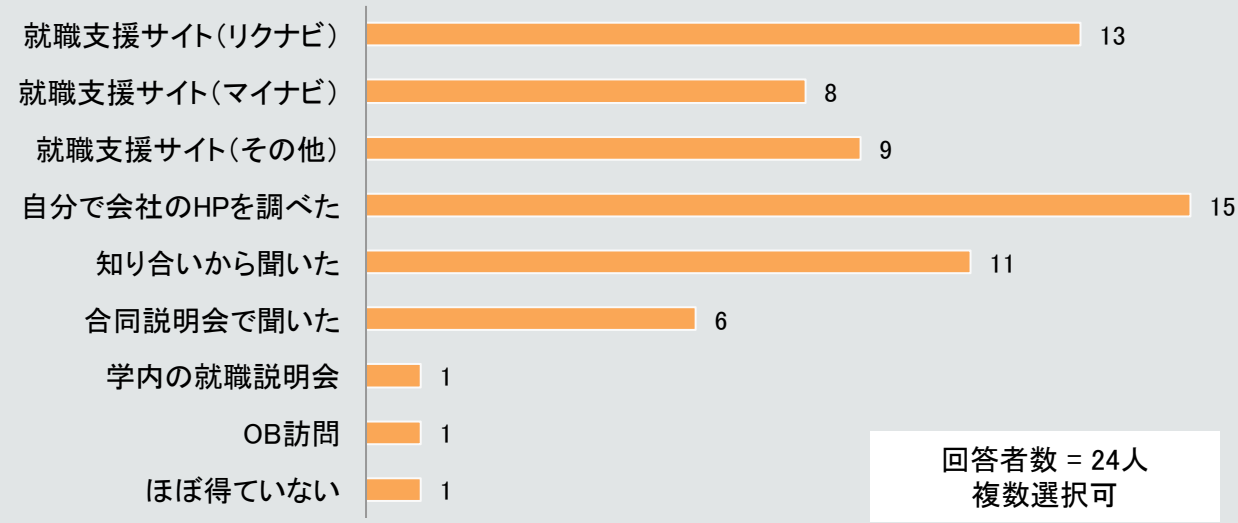


図3.24.　就職活動の際の情報収集手段

学生団体の活動を踏まえた進路選択に関する調査　まとめと考察

関わり続ける意志と、実際に関わり続けている人のギャップ

P.33より、現役学生のうち、卒業後も環境・第一次産業に関連する分野に関わり続けたいという意志がある人は、全体の85%（回答者193人に対して、続ける意志のある人は163名）でした。それに対して、P.34より、OB・OGの中で実際に関わり続けている、あるいは関わる予定がある人は、67%でした（回答者43人のうち、現役社会人24名とまだ就職していないが就職先が決まっている人9名の合計の33名に対して、現役社会人の中で続けている人は16名、まだ就職していないが就職先が決まっている人の中で就職後も続ける予定のある人は6名）。

回答者数の違いなどから簡単に比較することはできませんが、学生時代に「活動を続けたい」と考えていた人の割合に比べて、実際に続けている人の割合は低くなっています。どこかのタイミングで、諦める人が一定数出たことが推察されます。

また、P.35より、現役学生の約75%が卒業後、関連分野にどちらかといえば関わり続けられると思っていました（図3.19.における3と4の合計）。それに対して、P.40で、現役社会人のうち「現在環境・第一次産業に関する活動を続けていないが、再び関わりたいと考えている人」に対するアンケートでは、どちらかといえば不可能（図3.23.における2）と答える人が、どちらかといえば可能（図3.23.における3）と答える人より多いという結果になりました。

関わり続けるにあたっての障害

環境・第一次産業に関する活動を、卒業後も続けるにあたっての障害として、現役学生、OB・OGともに、「環境・第一次産業分野はビジネスとして成立しづらい」、「環境・第一次産業分野に関連する職業の選択肢が少ない」という回答が複数見られました。

環境・第一次産業分野に関連する仕事が少ないという側面もあるかもしれませんが、あまり認知されておらず、そのような仕事のイメージができていないことも考えられます。

以上より、生物多様性わかものネットワークでは、学生時代に環境・第一次産業に関する活動に関わった学生が、卒業後もその分野に関わり続けやすくなるために、以下のような取組が必要であると考えます。

- 「環境・第一次産業に関する活動をしていた（環境・第一次産業に対する見識を有する）人材を採用したい」という企業等のニーズの掘り起こしとその広報
- 環境・第一次産業に関する活動をする学生と、卒業後も活動を続けている人との交流を図るイベント等の開催
- 環境・第一次産業に関する就職先に特化した就職相談会等のイベントの開催

上記の活動は、既に行っている団体もありますが、今後も継続して強化していく必要があります。学生団体の先輩が、卒業後も活動を継続している姿を見て「自分も卒業後に続けられそう」と感じる学生もいた（P.35参照）ことから、学生にロールモデルを多く見せることは有意義であると考えます。

参考資料

学生団体向け（第２章）
生物多様性に関する活動の実施状況

どれか1つを選択する質問内容：　選択肢の先頭が ●　または　数字（1. 2. 等）
複数選択可の質問内容　　：　選択肢の先頭が □
回答が必須でない質問　　：　文字の色を 緑色 で表示

1．基本情報

1. 団体（プロジェクト）名
2. 代表連絡先
3. 種別
   - ● 特定の大学・専門学校などを拠点とする部活・サークル・委員会（の中のプロジェクト）
   - ● 大学・専門学校などの拠点を持たないインカレサークル（の中のプロジェクト）
   - ● NPO・NGO（法人格を問わない）（の中のプロジェクト）
   - ● その他（記述式）
4. 設立年
5. 所在都道府県
6. 団体（プロジェクト）の構成人数
   - ● 1～10人
   - ● 11～20人
   - ● 21～30人
   - ● 31～40人
   - ● 41～50人
   - ● 51～60人
   - ● 61～70人
   - ● 71～80人
   - ● 81～90人
   - ● 91～100人
   - ● 100人以上
7. 団体（プロジェクト）の活動目的（自由記述）
8. 実施している活動（複数選択）
   - □ 建物などの緑化事業などを通した省エネ・ヒートアイランド緩和
   - □ 打ち水などを通した省エネ・ヒートアイランド緩和
   - □ キャンドルナイトなど省エネに貢献するイベントの開催
   - □ イベントでのゴミ分別指導やリユース容器などの対応
   - □ 通常時のリユース容器・古紙など、3R関係の対応（企画・回収など）
   - □ 不用品などでバザーを開催
   - □ ペットボトルキャップの回収
   - □ ゴミ拾いなどの清掃活動
   - □ ゴミ分別率の調査
   - □ 里山の整備などフィールドでの自然環境保全
   - □ 特定の種の保護などの活動
   - □ 自然観察のイベントなどの主催
   - □ 生態系に配慮した企業緑地などの造成・保全
   - □ 生物調査
   - □ 農作業の実施
   - □ 農作業などの第一次産業体験イベントの開催
   - □ 環境・第一次産業に関する教育
   - □ イベントでの環境・第一次産業に関するブースやポスターの出展
   - □ 環境・第一次産業に関わる団体や個人のネットワークづくり
   - □ 環境・第一次産業に関わる団体や個人のスキルアップ支援
   - □ ポスター掲示やSNSなどを使った普及啓発
   - □ 大学などに対する提言活動
   - □ 自治体・国に対する提言活動
   - □ 国際会議などでの提言活動
   - □ その他（記述式）

9. 活動内容について補足がありましたらお書きください（自由記述）
10. 団体（プロジェクト）で最も多い構成員の所属
    - 文系の学科に所属する人
    - 理系の学科に所属する人
    - 文理混合の学科に所属する人
    - 文系、理系が同数くらい
    - その他（記述式）

2. 生物多様性に関する活動について

1. 下記にあげる活動を行っていますか（それぞれの項目に対して、左下の選択肢から選択）

＜選択肢＞
- 生物多様性保全を意識した活動として行っている
- 生物多様性保全を意識した活動ではないが行っている
- 行っていない

＜項目＞
- 排水・排ガスなど化学物質に関する活動
- サンゴ礁や高山帯など特に温暖化の影響をうけやすい環境の保全活動
- 森林伐採など自然環境の破壊や劣化を止めるための活動
- 自然環境の保全管理活動（里山なども含む）
- 絶滅が危惧される生物種の保護・保全活動
- 天然資源（水産資源や狩猟など）に関する活動
- 持続可能な一次産業（農業・林業・養殖業）に関わる活動
- 郷土固有種（伝統野菜など）の栽培や利用促進、系統保存の活動
- 農業での適切な施肥、農薬の使用に関する活動
- 地域の伝統的な知恵・知識の伝承にむけた活動
- 生物多様性に関する活動への資金援助（発展途上国の取組の支援等）
- 外来種駆除や侵入防止に関する活動
- 気候変動に関する活動
- ABS（http://www.eic.or.jp/ecoterm/?act=view&serial=3008）や名古屋議定書に関する活動

2. 先程の質問の回答について、該当するものをお選びください。
    - 「生物多様性保全を意識した活動として行っている」という回答が一つでもあった → セクション3へ
    - 「生物多様性保全を意識した活動ではないが行っている」という回答が一つでもあった → セクション6へ
    - 団体の中に意識した活動を行うプロジェクト・意識していない活動を行うプロジェクトの両方がある（これとは別に、プロジェクトごとにアンケートに回答している） → セクション5へ
    - 全て「行っていない」という回答だった → セクション7へ

3. 生物多様性保全を意識した活動について

1. 生物多様性保全を意識して行っている活動について、どのようなものか詳しくお書きください（自由記述）
2. その活動を始めたきっかけがわかるようでしたら教えてください（自由記述）
3. にじゅうまるプロジェクトの宣言を希望されますか
   - はい
   - いいえ
   - 今すぐには決められないので検討したい
4. 活動を実施する際に特定のフィールド（保全活動を実施している里山、環境教育の実施先の小学校等）をお持ちですか
   - はい　→ セクション4へ
   - いいえ　→ セクション5へ

4. フィールドを持っている団体について

1. 活動拠点の位置を教えてください（「〇〇県〇〇市〇〇」の形式）
2. フィールドの位置を教えてください（「〇〇県〇〇市〇〇」の形式）

5. 活動の支援について

1. 活動は、団体外部から何らかの支援を得ていますか（複数回答可）
   - ☐ 資金的支援（助成金など）
   - ☐ 知識の提供（外部講師、活動に関する資料など）
   - ☐ 活動場所の提供（イベント参加機会など）
   - ☐ 人手（活動スタッフなど）
   - ☐ 特にない
   - ☐ その他（自由記述）
2. よろしければ具体的な支援内容を教えてください
3. 現在活動で感じている主な課題を教えてください（複数回答可）
   - ☐ 知識不足
   - ☐ 知識の継承・後継者育成
   - ☐ 団体運営の仕方
   - ☐ 資金不足
   - ☐ 活動の安全管理
   - ☐ フィールドが遠い
   - ☐ 参加者が固定化されている・人員不足
   - ☐ 学業との両立
   - ☐ 活動地不足
   - ☐ その他（自由記述）
4. 感じている課題について、よろしければ詳しく教えてください

→ セクション9へ

6. 生物多様性保全を意識していない活動について

1. 意識していない理由を教えてください
    - 活動が生物多様性保全と関係があると知らなかった
    - 関係があることは知っていたが、団体（プロジェクト）として生物多様性保全を意識するかどうかは検討できていない
    - 生物多様性保全を意識するかどうか検討はしたが、なんらかの問題があり活動目的に組み込むことをやめた
    - その他（自由記述）
2. 検討はしたが組み込むことをやめたと回答された方は、そのとき障害になったことについて教えてください（自由記述）
3. 生物多様性保全を意識せず行っている活動について、どのようなものか詳しくお書きください
4. その活動を始めたきっかけがわかるようでしたら教えてください
5. にじゅうまるプロジェクトの宣言を希望されますか
    - はい
    - いいえ
    - 今すぐには決められないので検討したい

7. 生物多様性保全に関する活動を行っていない団体（プロジェクト）について

1. 生物多様性に関する活動の実施を検討したことがありますか
    - 検討したことがない　→ セクション9へ
    - 検討したが、優先度が低い　→ セクション9へ
    - 検討したが、課題があって実施できない（課題が解決したら実施するつもりである）　→ セクション8へ
    - 検討中である　→ セクション8へ

8. 生物多様性保全に関する活動を始めるに当たっての障害

1. 生物多様性に関する活動を実施するにあたっての課題を教えてください（自由記述）

9. 最後に

1. 生物多様性わかものネットワークによる講演や勉強会の実施を希望されますか
    - はい
    - いいえ
    - 今すぐには決められないので検討したい
2. アンケートの内容について、ご質問・ご意見がございましたらご記入ください（自由記述）

学生、OB・OGの個人向け（第３章）
環境・第一次産業活動を行う学生の意識・進路選択について

どれか1つを選択する質問内容：　選択肢の先頭が ● または 数字（1. 2. 等）
複数選択可の質問内容　　：　選択肢の先頭が □
回答が必須でない質問　　：　文字の色を 緑色 で表示

1．基本情報

1. お名前
2. 性別
3. メールアドレス
4. 出身地（都道府県）
5. 居住地（都道府県）
6. 学生時代の所属団体名（環境・第一次産業に関わるもののみ記入）
7. （現役学生のみ）学年
   - ● 学部1年
   - ● 学部2年
   - ● 学部3年
   - ● 学部4年
   - ● 学部5年以上
   - ● 修士1年
   - ● 修士2年
   - ● 修士その他
   - ● 博士以上

   （OB・OGのみ）社会人経験年数
   - ● まだ社会人になっていない
   - ● 1年目
   - ● 2～3年目
   - ● 4～5年目
   - ● 6～10年目
   - ● 11年以上
8. 専門
   - ● 文系
   - ● 理系
   - ● 文理混合
9. 学科
   1. 法学・政策系
   2. 経済・経営・商学
   3. 社会・環境情報系
   4. 人文系
   5. 教育系
   6. その他文系
   7. 機械系
   8. 数学系
   9. 物理系・応用物理系
   10. 建築・土木系
   11. 生物・生命工学系
   12. 生態学系
   13. 化学・物質工学系
   14. 資源・地球環境系
   15. 農業・農学系
   16. 水産系
   17. 畜産・酪農系
   18. 医学・歯学系
   19. 獣医系
   20. 衛生医療・介護系
   21. 芸術・音楽系
   22. 体育・スポーツ系
   23. 電気・電子系
   24. 情報工学系
   25. その他理系

2. 自然環境に関する意識について

1. 以下の選択肢の中で、自然に関わりがあると思うものを全て選択してください（複数選択）
   - ☐ CO2や大気汚染物質の吸収などの大気や気候を調整する働き
   - ☐ 水資源の供給、水質浄化などの働き
   - ☐ 動物・植物など生き物の生息・生育地としての働き
   - ☐ 紙・木材・肥料などの原材料を供給する働き
   - ☐ 魚やきのこなどの食料を供給する働き
   - ☐ 肥沃な土壌を形成し、維持する働き
   - ☐ 薬の開発や品種改良のもととなる遺伝資源を供給する働き
   - ☐ 芸術の題材や山岳信仰の拠り所となるなどの、文化的、精神的な働き
   - ☐ レクリエーション・観光の場を提供する働き
2. 1で選択したものが、近年減少していると思うことはありますか？
   - すごくある
   - まあまあある
   - あまりない
   - 全くない
3. 1で選択したものを、将来世代に残すためにはどのような行動が必要だと思いますか？（自由記述）
4. 以下の取組を行っていますか？（それぞれの項目に対して、左下の選択肢から選択）

＜選択肢＞
- 日頃から行っている
- 行いたいと思っているが中々できていない
- 行ったことはある
- 行ったことがない

＜項目＞
- 節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む
- 旬のもの、地のものを選んで購入する
- 生きものを最後まで責任を持って育てる
- 環境に配慮した商品を優先的に購入する
- 身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう
- 自然保護活動や美化活動に参加する
- 自然や生きものについて、家族や友人と話し合う
- エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加する

3. 生物多様性に関する学習・用語について

1. 環境・第一次産業に関して、知識をどのように得ていますか（複数回答可）
   - ☐ 学部や学科の授業
   - ☐ 学部や学科の授業とは関係ないが、環境・第一次産業に関する知識を得られる授業を履修している
   - ☐ 団体内での勉強会
   - ☐ 団体外部での勉強会（個人参加）
   - ☐ 団体外部での勉強会（団体としての参加）
   - ☐ 本やインターネットなどを利用して独学で
   - ☐ 特に何もしていない

2. 「生物多様性」という言葉の意味を知っていますか？
   - ● 意味をしっている
   - ● 意味は知らないが、言葉は聞いたことがある
   - ● 聞いたこともない
   - ● わからない

3. 「愛知ターゲット」という言葉の意味を知っていますか？
   - ● 意味をしっている
   - ● 意味は知らないが、言葉は聞いたことがある
   - ● 聞いたこともない
   - ● わからない

4. 「にじゅうまるプロジェクト」という言葉の意味を知っていますか？
   - ● 意味をしっている
   - ● 意味は知らないが、言葉は聞いたことがある
   - ● 聞いたこともない
   - ● わからない

5. 「生物多様性国家戦略」について知っていますか？
   - ● 内容をしっている
   - ● 内容は知らないが、言葉は聞いたことがある
   - ● 聞いたこともない

これ以降のセクションは、現役学生対象の質問と、OB・OG対象の質問で内容が異なります。P.50からP.51は現役学生対象、P.51からP.54はOB・OG対象の質問内容を記載します。

現役学生対象

4. 進路選択について

1. 環境・第一次産業に関して、特に関心のある分野・問題を教えてください。（複数回答可）
   - ☐ 気候変動・地球温暖化
   - ☐ オゾン層
   - ☐ 酸性雨
   - ☐ 大気汚染
   - ☐ 騒音・振動・悪臭
   - ☐ 海洋環境
   - ☐ 川や湖の環境
   - ☐ 地下水・土壌汚染
   - ☐ 地盤沈下
   - ☐ 廃棄物・3R
   - ☐ 自然・生態系・生物多様性
   - ☐ 環境と開発・途上国の環境・環境分野での国際協力
   - ☐ 砂漠化
   - ☐ 限りある資源の有効活用
   - ☐ 農業
   - ☐ 林業
   - ☐ 水産業
   - ☐ 畜産業
   - ☐ 狩猟業
   - ☐ 第一次産業におけるビジネス
   - ☐ 第一次産業分野での国際協力
   - ☐ 地域活性化
   - ☐ 特にない
   - ☐ その他（記述式）
2. 環境・第一次産業に関して、現在活動している分野・問題を教えてください。（複数回答可）

   1. と同じ選択肢を使用
3. 卒業後、環境や第一次産業と関わり続けていきたいと思いますか。
   - 今の活動分野または興味分野が活きる分野で関わり続けたい → セクション6へ
   - 今の活動分野または興味とは別の分野で関わり続けたい → セクション5へ
   - 関わるつもりはない → セクション7へ
   - 考えたことがない → セクション8へ

5. 関わりたい分野について

1. どのような分野で関わりたいか、教えてください（複数選択可）

   セクション4. の1. と同じ選択肢を使用

6. 関わり続けることについて

1. どのような形で関わりたいですか
   - 仕事として
   - 仕事以外の場で
   - 仕事として、仕事以外の両方で
2. 関わり続けることが、どのくらい可能だと考えていますか

   1（不可能）～4（可能）の4段階評価
3. 上の選択の理由を教えてください（自由記述）
4. 関わり続けるうえで障害・課題と思うことがあれば教えてください（自由記述）

6. 関わるつもりがない理由について

1. 関わるつもりがない理由を教えてください（自由記述） → セクション6. の2. へ

7. 最後に

1. 生物多様性わかものネットワークの活動等の説明を聞いてみたいですか
   - はい
   - いいえ

OB・OG対象

4. 進路選択について

1. 学生時代に環境・第一次産業に関して、活動していた分野・問題を教えてください（複数回答可）
   - ☐ 気候変動・地球温暖化
   - ☐ オゾン層
   - ☐ 酸性雨
   - ☐ 大気汚染
   - ☐ 騒音・振動・悪臭
   - ☐ 海洋環境
   - ☐ 川や湖の環境
   - ☐ 地下水・土壌汚染
   - ☐ 地盤沈下
   - ☐ 廃棄物・3R
   - ☐ 自然・生態系・生物多様性
   - ☐ 環境と開発・途上国の環境・環境分野での国際協力
   - ☐ 砂漠化
   - ☐ 限りある資源の有効活用
   - ☐ 農業
   - ☐ 林業
   - ☐ 水産業
   - ☐ 畜産業
   - ☐ 狩猟業
   - ☐ 第一次産業におけるビジネス
   - ☐ 第一次産業分野での国際協力
   - ☐ 地域活性化
   - ☐ 特にない
   - ☐ その他（記述式）

2. 環境・第一次産業に関して、現在特に関心のある分野・問題を教えてください（複数回答可）

   1. と同じ選択肢を使用

3. 学生時代、どの程度環境や第一次産業活動に従事していましたか
   - すごくしていた
   - まあまあしていた
   - あまりしていなかった
   - 全くしていなかった

4. 学生団体卒業後の現在も、環境・第一次産業に関する活動を続けていますか
   - 仕事として続けている → セクション5へ
   - 仕事以外の場でライフワーク的に続けている → セクション6へ
   - 仕事、仕事以外両方で続けている → セクション7へ
   - 続けていない → セクション10へ
   - まだ就職していない（就職先は決定している） → セクション8へ
   - まだ就職していない（就職先はまだ決定していない（大学院などの進学先が決定している人はこちら）） → セクションへ

5. 仕事として活動を続けている（続ける予定の）方へのアンケート

1. 環境・第一次産業に関して、仕事としている（する予定の）分野・問題を教えてください（複数回答可）

   セクション4. の1. と同じ選択肢を使用

2. 差し支えのない範囲で、所属（予定）企業等をお答えください（自由記述）

→ セクション9へ

6. 仕事以外の場で活動を続けている方へのアンケート

1. 現在、環境・第一次産業に関して、ライフワーク活動としている分野・問題を教えてください（複数回答可）

   セクション4. の1. と同じ選択肢を使用

2. 差し支えのない範囲で、所属（予定）団体名をお答えください（自由記述）

→ セクション9へ

7. 仕事として、仕事以外両方で活動を続けている（続ける予定の）方へのアンケート

1. 環境・第一次産業に関して、仕事としている（する予定の）分野・問題を教えてください（複数回答可）

   セクション4. の1. と同じ選択肢を使用

2. 差し支えのない範囲で、お仕事をされている（する予定の）所属企業等をお答えください（自由記述）
3. 環境・第一次産業に関して、仕事以外の場で活動している（する予定の）分野・問題を教えてください。（複数回答可）

   セクション4. の1. と同じ選択肢を使用

4. 差し支えのない範囲で、活動を続けられている（続ける予定の）所属団体等の名前を教えてください（自由記述）

→ セクション9へ

8. 就職先が決まっている方へのアンケート

1. 就職後も、環境・第一次産業に関する活動をする予定はありますか
   - 就職先が環境・第一次産業に関わる仕事である。仕事以外の場では続ける予定がない。 → セクション5へ
   - 就職先が環境・第一次産業に関わる仕事である。仕事以外の場でも続ける予定である。 → セクション7へ
   - 就職先は環境・第一次産業に関係ない。仕事以外の場でも続ける予定がない。 → セクション10へ
   - 就職先は環境・第一次産業に関係ない。仕事以外の場では続ける予定である。 → セクション6へ
   - 配属先の希望が通れば仕事でも続ける予定で、仕事以外の場では続ける予定がない。 → セクション5へ
   - 配属先の希望が通れば仕事でも続ける予定で、仕事以外の場でも続ける予定である。 → セクション7へ

9. 現在社会人の方、就職先が決まっている方へのアンケート

1. 就職活動の際、環境・第一次産業に関する仕事に就きたいと考えていましたか

   1（不可能）～4（可能）の4段階評価

2. 1の回答について、その理由を教えてください（自由記述）

3. 就職活動の際、主にどこで仕事の情報を得ていましたか（複数回答可）

   - ☐ 就職支援サイト（リクナビ）
   - ☐ 就職支援サイト（マイナビ）
   - ☐ 就職支援サイト（その他）
   - ☐ 独自で会社のHPを調べた
   - ☐ 合同説明会で聞いた
   - ☐ 知り合いから聞いた

4. 環境・第一次産業の活動に関わり続けるうえで障害・課題と思うことがあれば教えてください（自由記述）

→ セクション14へ

10. 活動を続けていない（続ける予定がない）方へのアンケート

1. 今後、再び環境や第一次産業に関する活動に関わりたいと思いますか？

   - ● すごく思う → セクション11へ
   - ● まあまあ思う → セクション11へ
   - ● あまり思わない → セクション12へ
   - ● 全く思わない → セクション12へ

11. 現在活動を続けていないが今後関わりたい方へのアンケート

1. どのような形で関わりたいですか

   - ● 仕事として
   - ● 仕事として、仕事以外の両方で
   - ● 仕事以外の場で

2. 関わり続けることが、どのくらい可能だと考えていますか

   1（不可能）～4（可能）の4段階評価

3. 上の選択の理由を教えてください（自由記述）

4. どのような分野で関わりたいか、教えてください（複数選択可）

   - ☐ 特定のものではなく、環境全般
   - ☐ 特定のものではなく、第一次産業全般
   - ☐ 気候変動・地球温暖化
   - ☐ オゾン層
   - ☐ 酸性雨
   - ☐ 大気汚染
   - ☐ 騒音・振動・悪臭
   - ☐ 海洋環境
   - ☐ 川や湖の環境
   - ☐ 地下水・土壌汚染
   - ☐ 地盤沈下
   - ☐ 廃棄物・3R
   - ☐ 自然・生態系・生物多様性
   - ☐ 環境と開発・途上国の環境・環境分野での国際協力
   - ☐ 砂漠化
   - ☐ 限りある資源の有効活用
   - ☐ 農業
   - ☐ 林業
   - ☐ 水産業
   - ☐ 畜産業
   - ☐ 狩猟業
   - ☐ 第一次産業におけるビジネス
   - ☐ 第一次産業分野での国際協力
   - ☐ 地域活性化
   - ☐ 特にない
   - ☐ その他（記述式）

→ セクション14へ

12. 今後も活動を再開したいと考えていない方へのアンケート

1. 関わりたいとあまり思わない・全く思わない理由を教えてください。

→ セクション9へ

13. 就職先が決まっていない方へのアンケート

1. 将来就職する際、環境や第一次産業に関わる仕事がしたいと考えていますか？

   1（全く考えていない）～4（すごく考えている）の4段階評価

2. 1の回答について、その理由を教えてください（自由記述）
3. 環境・第一次産業の活動に関わり続けるうえで障害・課題と思うことがあれば教えてください（自由記述）

14. 最後に

1. 生物多様性わかものネットワークの活動等の説明を聞いてみたいですか
   - はい
   - いいえ

編集後記

編集長：安藤　みゆき

完成までに想定していたよりずっと長い期間がかかってしまいましたが、「生物多様性わかもの白書vol.2」を無事完成させることができ、大変嬉しく思っています。資金や知識の面で援助をくださった皆様、アンケート回答者の皆様、そして様々な注文を快く聞いてくださったメンバーのみんな、本当にありがとうございました。

調査結果を見る前までは、多くの学生が就活を警戒して、環境・第一次産業分野の仕事・活動を続けることが難しいと、半ば諦めているのではないかという先入観を持っていました。しかし、意外と環境・第一次産業分野の仕事・活動を続けることを前向きに考えており、実現可能性も高いと考えている学生が多かったことは驚きでした。ユース（わかもの）は、将来の日本、あるいは世界の環境を守っていく人材になる大きな可能性を秘めていると考えています。将来に渡って環境・第一次産業分野の活動を続けるためのロールモデルを見る機会があること、仕事・活動の情報を手に入れられる環境が整っていることが重要です。

当然のことですが、どんなに活発に活動しているユースでも、数年経てばユースではなくなってしまいます。その時を迎えたときに、「自分をロールモデルとして後輩に見せてあげられるような存在になりたい」と思う人が増えていくよう、自分も含め今後とも精進したいと思います。

さて、「生物多様性わかもの白書」プロジェクトは、ユースの活動環境整備の根拠となるデータをまとめているものです。つまり、まとめて終わりでは意味がありません。このデータを使って様々な活動を推進していくことで、初めてこのプロジェクトに息が吹き込まれると考えています。

大学卒業後も想いを持って活動を続ける人々が増え、もっともっと環境・第一次産業分野が活発になっていくことを願っています。

メンバーより（50音順）

有見　亜佐土

今回の調査では、学生時代「環境」に携わった多くの人が、その想いをもって仕事・活動を選択していることが明らかになり、「就職活動」と両立できる可能性が示唆されました。その両立の具体化(考えられる進路のまとめ)が、個人的に今後深めていきたいことでもあります。

今回はライセンス関係で微力ながらお手伝いさせていただき、私共の活動に理解を示してくださる方々の存在を改めて認識し、嬉しく感じました。応援してくださっている方々へ、この場をお借りして御礼申し上げます。

篠原　光礎

「人の意識」という定量的に示しにくい部分ですが、様々な工夫を凝らして挑戦してみました。普及啓発の効果を図るやり方として少しでも参考になればと思います。

引地　慶多

日本全国多くの団体にご協力いただき、第2弾の発行に至ることができました。ありがとうございます。

若者世代が行う生物多様性に関する活動の動向を知る一助となれば幸いです。

ご支援いただいた皆様

- 株式会社ダイフク様

DAIFUKU
Always an Edge Ahead

- 国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）様

Japan Committee for UNDB
2011 2020
国連生物多様性の10年日本委員会

- IUCN日本委員会（IUCN-J）様

IUCN | 日本委員会

生物多様性を守るために、あなたにできること

「生物多様性に興味はあるけれど、何をしたら良いのだろう？」
行動に移すための事例を、いくつか紹介します。

一人でできること

- **「MY行動宣言」に参加する**

MY行動宣言とは、「国連生物多様性の10年日本委員会」が行っているキャンペーンです。日常でできる5つのアクションは、生物多様性を守るための第一歩となります。自分にできることを宣言し、日々の暮らしのなかで、この5つのアクションを心がけてみては？

- ✓ **Act 1　地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。**
- ✓ **Act 2　生の自然を体験し、動物園・植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。**
- ✓ **Act 3　自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。**
- ✓ **Act 4　生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。**
- ✓ **Act 5　エコマークなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。**

○もっと詳しく知りたい方はこちら！：http://undb.jp/action/spread-action/

- **生物多様性わかものネットワークの活動に参加する**

生物多様性わかものネットワークでは、学生と若手社会人が一緒になり、生物多様性わかもの白書プロジェクト以外にも、様々な人を対象とした出前講演や主に国際会議での政策提言、海外のユースとの協働など、多岐に渡る活動をしています。色々な経歴・経験を持つメンバーと話してみませんか？

○もっと詳しく知りたい方はお問い合わせください：

biodiversity.youth.network ★ gmail.com（★を@に変えてください）

団体としてできること

- **にじゅうまるプロジェクトへ参加する**

「愛知ターゲットを知り、活動宣言をし、行動する」ということを核とした、どなたでも参加できる活動です。現在、多様な立場の団体が、20の目標ごとに活動を宣言、行動しています。他団体とのつながりが増える、愛知ターゲットへの貢献が証明できるなど、活動を登録することで様々な特典があります。

○もっと詳しく知りたい方はこちら！：http://bd20.jp/

生物多様性
わかもの白書vol.2

2017年8月

生物多様性わかもの
ネットワーク

本書は上記の皆様のご支援により完成しました。

守られてるから、守りたい。この星すべての生命。

生物多様性わかものネットワークは
にじゅうまる宣言をしています。